53年3月に全国高校選抜大会

〜宿願の2大会、動き出す〜

全国クラブ大会も実施を検討

「全国高校選抜大会」「全国クラブ大会」〜いずれも仮称〜——宿願となっていた両大会が11月に開かれた二つの全国会議で支持をうけ、実現に向かい動き出した。

◇全国高校選抜大会 文部次官通達などによって、高校界の全国的な規模の大会は「年1回」（注・国体は除く）というのが、長いあいだの取り決めだったが、45年、この通達が緩和され、いわゆる「春の高校大会」を、各競技は先を争うようにスタートさせた。

ハンドボール界は、「加盟校の増加など組織拡充策を最優先させる」「高校チームの目標はあくまで夏のインター・ハイスクール。春に全国大会を設けることは、充分な基礎練習を積まず勝負のみを争うことになる」との意見が強く、積極的な動きを見せなかった。

ところが、昨年から国体に高校の部が無くなったのを導火線にして、春の大会を望む声が急激に高まり、全国高体連ハンドボール部首脳陣も、日本協会側に非公式なから打診を試みた。

日本協会側は、これまで開設しなかった背景の思考を、大きく転換させる理由づけに乏しいことや新しい全国事業を増やすには、財政的な余裕がないとの見解から、必しも乗り気ではなかった。

しかし、高校界は〝現場〟関係者を含めて、他スポーツとの対比から、実現を強く要望、日本協会も6月19日の月例常務理事会で初めてこの問題を検討するに至った

その後、全国高体連ハンドボール部側の意思統一や、日本協会側に前向きな姿勢が芽ばえ昭和52年度事業として普及指導部から60万円の予算請求を行ない、11月13日の全国理事会、14日の全国代議員会で正式に実施が承認された。

日本協会・荒川清美理事長と、全国高体連・徳永陸繁ハンドボール部長（日本協会副会長）の話を総合すると、第1回大会は、明後53年3月下旬(3日間)、名古屋市が予定され、参加チームは男女とも各ブロックからの1と開催地1の計10チームになる模様。

なお、〝選抜大会〟の実施には全国高体連、青少年運動連絡協議会などの「承認」をとる必要があり、具体的な要項が発表されるのは、早くても来年2月ごろとみられる。

実施にあたって関係筋は、現在ほとんどの都道府県が行っている新人大会を、〝予選化〟し、そのあとでブロック予選を開けば、改めて、この大会のために競技会を設ける必要はない、とみている。

本大会参加チームに対して、宿泊費または旅費の一部を日本協会が負担する計画だ。

熱こもったクラブ担当者会議

◇全国クラブ大会 11月3日東京で開かれた初の「全国クラブ担当者会議」で、トントン拍子に話が進み、「なお細部の調整が必要」(日本協会・勝繁夫普及指導部長)とはいうものの、できれば、来年8月に第1回を開こうという意気ごみである。

クラブ問題は、種別の全国連盟が幅を利かす斯界では、ほとんどこれまで顧みられることがなく、荒川理事長も「気にはなるが、どこから手をつけてよいか判らない」といっていたもの。

今春、普及指導部内にプロジェクトチームがつくられ、ようやく全国的なテーマとして、日本協会が音頭とりになる体制となり、11月の会議には、実に21都道府県から28名の代表者が出席、熱のこもった討論を行った。

タテのつながりのないクラブの関係者が、これほどの数、参集したのは、明きらかにクラブが一つの〝勢力〟として、根をはり、地についた活動をつづけていることを示すものだろう。

もちろん、これまでにも再三説かれてきたクラブの性格の多様性は、この会議にも持ち出され、特に「トップチームとしてタイトルや全国大会を目指すチーム」「チャンピオンシップは不要とするチーム」の二つの大きな流れは、そのまま、クラブ問題の両極として浮き彫りにされたようだ。

とりあえず、「全国大会」については、その可否をも含めて、勝岡田重博（日本協会普及指導部クラブ問題プロジェクト・チーフ）村田稔(東京都クラブ連盟理事長)の三氏による〝小委員会〟で充分な検討を加えることになったが、会議出席者の熱っぽいムードを後だてにして、実現性はかなり濃いものとみられる。

本誌の非公式な調査では現在いわゆる「クラブ」といわれるチームの数は全国で男子380、女子75程度とみられる。

「ハンドボール」

51年12月号（第148号）目次

【表紙写真】佐賀国体成年女子決勝・茨城（日本ビクター）対熊本(立石電機)。第2延長後も同点、両者優勝となった。茨城・加藤の攻撃（10月29日・神埼高球技場）

撮影・山田真市

加盟金、登録金（一部）52年度から値上げ

～国体全県参加、まず成年男子に～

「強化対策部」の復活も決まる

モントリオール・オリンピック後初の全国会議として注目された全国理事会、臨時全国代議員会は11月13、14の両日、東京渋谷の岸記念体育会館で行われ、4年後のモスクワ・オリンピックを目指して新年度から選手強化対策部（仮称）の復活を決めたほか、懸案の財政問題は、長時間の論議の末、登録金などの値上げを議決した。組織協力金は廃止される。

また、田村正衛会長（欠席）の「次期以降は、たとえ推せんをうけても会長を辞したい」とする意向を受けることとなり、明年3月31日の任期満了時での同会長勇退が確定的となった。

このほか、1頁所報のとおり、52年度から「全国高校選抜大会(仮称)」の発足が決められ、国際事業としてモントリオールオリンピック優勝国・ソ連（男女）の来秋招へいを推進することを申し合わせた。

全国理事会

◇11月13日14時 岸記念体育会館301会議室◇出席、林達夫、徳永陸繁両副会長、荒川清美理事長ら21理事（定数33名以内、現在数29名・成立）

臨時全国代議員会

◇11月14日10時◇岸記念体育会館301会議室◇出席 斉藤(青森)、箱崎(岩手)、柳沢（長野)、桑名（栃木)、砂長(茨城)、遠藤(埼玉)、斉藤(群馬)、中根（三重)、久保田（静岡)、岡田（岐阜)、尾本(滋賀)、前田（大阪)、丸口（広島)、青木（山口)、山田(全日本教職員連)、岡部（全日本実連)＝出席17名、委任状10通、計27名（定数52名・成立）

一般Bにも個人登録

両会議とも、去る6月逝去された西敏郎副会長に哀悼の意を表したあと議事に進んだ。

最大の焦点はやはり「財政問題」。昭和50年度決算については、日本体協派遣の田沼次郎、下道吉夫両公認会計士及び日本協会・町田歳雄監事による監査報告書、同証明書の添付された決算書(次頁)を承認。欠損金をうけて開始された50年度の日本協会財政は、どうにか赤字の累積はまぬがれ、今年度末には、ある程度の剰余金をも予想できるとされた。

議論になったのは「昭和52年度予算」だ。

代議員会の強い要望で、史上初の年内編成をめざし、執行部は9月末に、来年度事業の洗い出しを行なったが、各部からの要求総額は約三千万円（＝次号に掲載）。

これをまかなうためには、51年度のままでは約850万円が不足する（注・51年度予想収入総額二一、五七二、六〇〇〇円）。

このため、財務部と財務委では10月以降、再三の会合の結果、加盟金、登録金の増額以外に打つ手なしとして、加盟金の2ランク（現行3ランク）加盟団体への加盟金賦課(現行無料)、登録金の一部増額、一般の全面個人登録と増額（現行A200円、B無料）などを盛りこんだ原案を作成した。

「組織協力金」は廃止

神田財務部長の説明は、これによって、加盟金で156万円、チーム登録料で約280万円、個人登録料で約233万円の増収が企れるとした。

また、この増額にともない、50 51年度施行された「組織協力金」はいっさい廃止する提案も付け加えられた。

日本協会は、ここ数年、事業の膨張と物価の上昇にあいながらもチームや個人へのはね返しをできるだけ抑えるという方向を打ち出していたため、この提案には、多くの〝抵抗〟が試みられた。

特に、底辺の拡大と競技人口の確保のため48年度から設けられた一般C（51年度はBと呼称）を、一気に3倍以上（注・現行300円）とするうえ、個人登録も課することについては、多くの意見が出されたが、結局、採決となり、

原案に賛成12、原案に反対2（棄権3）で、別掲のとおりに落ち着いた。

今年度まで、日本協会へは年間300円を納めるだけで済んでいた一般Bが、来年度から「千三百円プラス人員×200円」を必要とすることになったため、登録数の落ちこみ（注・50年度男156、女22、51年度男210、女25）が心配される。

「登録するメリット」をどこにおくかが、執行部に残された大きな課題だろう。

機関誌、増額で続刊

廃止の決まった「組織協力金」は50年度から設けられていたもの

割当額の分割払いや、本誌への協賛広告によって代行することもできるなど苦心が払われてきたが零細な〝地方財政〟を圧迫するものとして、再検討を望む声が強く一部には49年度の赤字補てんを地方に押しつけるというニュアンスさえあって、この日の会議を前に、岐阜協会からこの問題をタテに、執行部首脳の退陣をせまる動議も用意されたほどであった。

なお、組織協力金のうち50年7月31日の全国代議員会で決められた470万円は、今年10月末現在、283万円が納入されている。

昭和52年度加盟金(円)

・Aランク（100以上）	100,000
・Bランク（99以下）	50,000
・加盟団体	50,000(新設)

昭和52年度登録金（円）

▽チーム登録金	
・一般A	5,000
・一般B	1,000
・学　生	5,000
・高　校	1,500
・高　専	1,500
・少　年	500
▽個人登録金	
・一般A	500
・一般B	200（新設）

昭和52年度オリンピック基金（円）

・一般A	500
・学　生	500
・高　校	300
・高　専	300
・一般B	300（新設）

昭和52年度審判審査料（円）

▽申請料	
・国際公認	5,000
・A.B.C級	1,000
・D級	500
▽認定料	
・A級	2,000
・B級	1,500
・C級	1,000
・D級	300

チーム登録金のうち、高校、高専は他競技とのバランスのうえで据置き、オリンピック基金も、新たに一般Bからも徴収することになった以外は現行のまま。

機関誌は、続刊の意義を認める以上、増額（現行・年間購読料二千七百円）もやむをえないとして承認をうけた。

強化対策、年内に動き

注目の頂点強化対策は、モントリオール・オリンピックにおける成績（女5位、男9位）が、一応の評価をうけた印象で、特に両会議とも白熱した議論はなく、モスクワ(昭55)に向けて、頂点強化に専従する「選手強化対策部(仮称)設置」という荒川理事長の提案を了承した。

日本協会は、ミュンヘンオリンピックを前にした45年から約2年半、「選手強化対策部」を設けたことがあり、4年ぶりの復活である。すでに予算として技術部名儀で600万円（日本体協360、日本協会240）が見込まれている。

荒川理事長は、新年度機構の一環としたい意向のようだが、来春4月に第1回アジア選手権（クウェート）が控えていることや、現ナショナルチームを、中途半端な形においておくことはできないといった意見もあり、この部門だけ年内に発足、運行も考えられる。

人事については、現段階ではいっさい白紙である。

頂点強化に関連して山田代議員（全日本教職員連）が「ナショナルチームサイドは積極的な国際交流を要望し、現状を不満としている。今後の方針を聞きたい」としたのに対し、荒川理事長は「意義は認めるが財政的裏付けがまったくなく、その面でムリしてまで行うつもりはない」と回答した。

日本協会
昭和50年度決算（単位・円）

【収入】	
加盟金	1,170,000
登録料	5,769,000
日体協補助金	6,411,880
検定料	4,776,300
審判審査料	381,500
機関誌購読料	6,166,960
機関誌広告料	3,407,700
競技規則書売上	1,148,370
グラノリエル戦	1,336,700
国際大会派遣費	12,248,665
オリンピック基金	702,200
寄付金	1,700,000
雑収入	1,308,416
組織・役員協力金	3,533,400
計	50,061,091
【支出】	
ＩＨＦ加盟金	214,810
日体協加盟金	100,000
人件費	2,759,500
消耗品費	209,944
文書印刷費	1,509,300
通信費	566,358
賃借費	828,000
会議費	644,030
雑　費	191,573
渉外・広報費	206,250
総務・企画部事業費	2,519,311
財務部事業費	527,640
技術部事業費	2,880,342
審判部事業費	1,162,370
普及指導部事業費	637,490
中学委員会事業費	700,000
機関誌刊行・発送費	6,936,197
グラノリエルス戦	1,204,029
国際大会派遣費	21,594,355
雑損失	34,150
借入金利息	95,502
オリンピック基金積立	702,200
計	46,223,351
【当期剰余金】	3,837,740

成年男子からまず全県参加

今春2月の代議員会で議決をみた国体の全県参加種別の設定は、改めて確認をうけ、その種別については、52年度の青森国体は成年男子、53年度の長野国体は成年女子に割りふることが内定した。それ以降については、改めて検討される。

11チームによる3種別は、現行の9ブロックに各1、開催県1のほか、開催県の所属ブロックに1を配当する。

国体・年度・種別配当数

	【成年】男	【成年】女	【少年】男	【少年】女
昭52(青森)	47	11	11	11
昭53(長野)	11	47	11	11

したがって、52年度は東北ブロックが成年女子、少年男女各2、53年度は北信越ブロックが成年男子、少年男女各2となる。

また、国体に日本リーグ勢、実業団リーグ勢の参加を規制する問題や単独チームにも学生の参加を認めない、成年男子にも学生の参加を復活させる提案なども行われたが、結論は出ず、来春2月の定期全国代議員会で一応のメドをつけることとなった。

全県参加種別の決定により、過去31年間、どの種別にもいちども代表を送っていない島根、鳥取、徳島、宮崎の4県が、来年度は成年男子に初参加できる。

ソ連の来秋招待を推進

事業面では、懸案の「全国高校選抜大会(仮称)」を、53年3月名古屋で開催することを申し合わせ（本誌1頁参照）、関係筋へ承認を求めることになった。

普及指導部による「全国クラブ大会(仮称)」に関しては、机上論の段階だが、前向きの姿勢をとるとした。

国際事業（国内）では、荒川理事長から「来年9月にモントリオール・オリンピック優勝国・ソ連（男女）を招へいしたい」との提案があり了承、ただちに手続きを開始することとなった。

日ソ交流は、日本体協及びソビエト体協を通じて行わねばならないが、荒川理事長は、10月のＩＨＦ（国際ハンドボール連盟）総会時に会ったソ連関係者から得た感触で「かなり可能性がある」という。

実現できれば、48年のユーゴ（ミュンヘンオリンピック優勝）招待にまさるビッグエベントになる。

人事面では、田村正衛会長が、すでに8月26日付で辞表を提出していることが初めて明らかにされた。

両会議では、田村会長の意思の固さを認めながらも、任期途中で同会長の辞表を受けとる理由はないとして、明年3月末日の任期いっぱいまで会長をつとめられるよう〝慰留〟することとなった。

このほか、荒川理事長がＩＨＦ第16回通常総会（10月・ポルトガル）の報告を行い、「ＡＨＦ（アジア連盟）によるアジア選手権大会は、ＩＨＦの主催する世界大会（選手権、オリンピック）には直結しない」と述べ、注目された。

今年度補正予算成る

日本協会常務理事会は、51年度の補正予算編成を進めていたが、このほどまとまり、11月の全国会議（代議員会・理事会）で承認をうけた。

それによると、今年度の一般会計（機関誌部門を除く）は、二千六百万円前後とみられ、当初予算よりも収支ゆるやかとなった。

各部配分のうち査定増が目立つのは技術部、総務企画部である。

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

美津濃 adidas 特約店
昌永スポーツ
甲府市中央四丁目桜りアーケード街

高級帯地
一秀
京都市上京区堀川通今出川下ル西側
西陣産業会館内
TEL（075）431—0147

京都染色資材株式会社
出野勝志
京都市中京区壬生大竹町54
TEL（075）811—5531

スプリンター・スターレットの
トヨタオートヤサカ株式会社
本社　京都市中京区壬生仙念町5番地
TEL（075）802—0151（大代表）

全道一を誇るスポーツ用品専門店
（株）スポーツハウス
釧路営業所　釧路市北大通10丁目
（23）—1526

松の寿司
植田和子
（清水市立商業高等学校ハンドボール部3年生）
清水市銀座1番3号　TEL66—3063

塩山病院
山梨県塩山市上於曽

株式会社 **加藤組**
代表取締役　加藤憲
函館市千才町3—2

鳥のデパート＜鳥料理＞
たぐち会館
田口欽一（旧姓　湯山）
（昭45日本体育大学ハンドボール部卒業）
静岡県清水市銀座12番12号

ソニービデオとトリニトロンカラーの専門店
寿電化サービス
代表者　川口玫
山梨県甲府市宝2丁目27—14
電話　0552—26—0319

技術と経験で奉仕する店
望月スポーツ
釧路市錦町5—1 電(23)—7255
支店くしろデパートスポーツコーナー　電(24—4721

たのしく学ぶ　明るい学園
学校法人　花園学園
梅花幼稚園
静岡県清水市南岡町3—8

地場産業に貢献する
奥山不動産
代表取締役　奥山仙治郎
甲府市丸の内2丁目14—3
電話(0552)24—3265・5698

株式会社 **松本組**
取締役社長　松本演之
本社　函館市吉川町4番30号
札幌支店　札幌市北区37条西4丁目安田ビル5F

茂津目精肉店
茂津目勝仁
（静岡県清水商高男子ハンドボール部父母の会顧問）
静岡県清水市桜ケ丘54　TEL0543—52—1951

上田茂行

山梨県ハンドボール協会
会長　植野保

山梨県ハンドボール協会
副会長　天川正次

能登・和倉温泉
政府登録 国際観光旅館 **加賀屋**
石川県七尾市和倉温泉・TEL大代表(076762)2111

株式会社 **函館小型運送**
本社営業所　函館市西桔梗町589番地
（流通センター内）
電話(0138)代表49—5131
札幌連絡所　札幌市白石区菊水元町73
電話（011）861—8178

全日本男子、活動を再開

モントリオール・オリンピック(7月)以後、鳴りをひそめていたナショナルチームのうち、まず男子が活動を再開する。

12月13日から東京五反田の大崎電気室内球技場で51年度ナショナルチームの強化合宿を行うもの。来春3月クウェートで開催が予定される第1回アジア選手権に備えての集合だ。

なお、51年度ナショナルチームは、50年度ナショナル(＝本誌136号参照GK3、FP16)が、そのまま移行して編成されているがコーチングスタッフ(竹野奉昭監督東嘉仲コーチ)は、若手の増強などを希望しており、場合によっては、近く追加選手の発表が行われるかもしれない。

○……51年度男子ナショナルチーム……○

▽GK 本田洋(大阪イーグルス)柴田正章(本田技研鈴鹿)、斉藤将一郎(秋田教員)▽FP 藤中憲二、中井武三、花輪博、松原光三柳川実(以上大同特殊鋼)、木野実穂積豊彦、津川昭(以上湧永薬品)佐々木健一、村田幸男(以上三景)飯田信行、斉藤幸司(以上大崎電気)、佐藤要二(本田技研鈴鹿)菊池悟(稲球会)、蒲生晴明(中大4年)、平野稔(海上自衛隊下総)

〈本誌注〉第1回アジア選手権については、3月クウェートで開かれるという以外、具体的な発表はいぜん行われていない。

五輪女子代表を推せん

日本協会は11月13日の月例常務理事会で、恒例の読売新聞社・第26回日本スポーツ賞の候補チーム(部門賞)に、モントリオール・オリンピック参加の「女子代表チーム」を推せんした。

教職員は長野県で

来年度日程

日本協会は、これまでに決まっている来年度の事業(全国大会)日程を次のように発表した。学連関係は年内にまとまる。

▽第18回全日本実業団選手権 5月中旬または53年3月(場所未定)
▽第9回全日本自衛隊選手権 5月下旬(東京)
▽第2回日本リーグ前期 6月11日〜7月31日(全国各地)
▽第5回全日本実業団連盟会長杯争奪女子大会〜実連単独事業〜6月上旬(岐阜県)
▽第28回全日本高校選手権 8月2〜7日(山口市)
▽第20回全日本教職員選手権 8月10〜13日(長野県)
▽第6回全国中学生大会 8月17〜19日(茨城県麻生町)
▽第4回全国高専選手権 8月下旬(秋田県＝交渉中)
▽第2回日本リーグ後期 9月23日〜11月27日(全国各地)
▽第32回国体 10月2〜7日(青森県七戸町)
▽第29回全日本総合選手権 12月7〜11日(東京体育館)
▽第9回全国実業団男子トーナメント 53年2月9〜21日(水戸市)
▽第1回全国高校選抜大会(仮称)53年3月下旬(名古屋市＝予定)

(お詫び)本誌前号3頁、来年の全日本教職員選手権を宮崎県で開くようお伝えしたのは誤りでした。

全国から31選手が参加

全日本実運ジュニア合宿

実業団(男)チームの若手育成と親睦を企る全日本実連第4回ジュニア強化合宿が10月1日から7日まで茨城県勝田市の自衛隊施設学校で行われ、全国12チーム31選手が参加、日本協会・渡辺慶寿技術部長、全日本男子・竹野奉昭監督らの指導をうけた。参加選手は次のとおり。

▽GK 長(日鉄建材)、近藤(トヨタ車体)、大谷(神戸製鋼)、佐野(日新製鋼)▽FP、中本、清崎、浦田、溝部(以上大同特殊鋼)豊岡、高木、川上(以上本田技研鈴鹿)、中西、高橋、南野(以上日鉄建材)、池田、高橋、藤枝(以上自衛隊勝田)、新田、佐伯(以上大崎電気)、清水、砂押(以上日本原子力研究所)、大塚、荒木(以上トヨタ車体)、竹上、平野(以上新日鉄名古屋)、徳田、関本(以上日新製鋼呉)、根本、福田(以上セントラル自動車)、山本(神戸製鋼)、長南(自衛隊神町)

台湾チームも参加か

「岐阜カップ」女子大会

岐阜協会が、各地の女子クラブチームに参加を呼びかけている「岐阜カップ・全国女子クラブ大会」は、近く申しこみが〆切られ、12月18、19の両日岐阜県民体育館で行われるが、同協会筋がこのほど明らかにしたところによると、台湾女子界のトップチーム「台中紡織HC」の特別参加も予定されている。

同チームは、陳金燕、呉月素、翁月苔、GK翁錦秀ら昨年春の世界選手権アジア予選の台湾代表メンバーも含まれ、最近3年間、台湾のビッグタイトルをほとんど獲得。今回の来日は、台中港国際ライオンズクラブの派遣によるもの

本田爽風会と稲球会

全日本総合社会人代表

第28回全日本総合選手権(12月東京)の全国社会人西地区代表決定戦は、本田爽風会(東海・三重)×垂水ク(近畿・兵庫)の初顔合せで、11月13日名古屋のプラザー工業体育館において行われ、本田爽風会が快勝、本大会へ初出場を決めた。

本田爽風会(三重) 28(15−6、13−3)9 垂水ク(兵庫)

同・全国社会人東地区代表決定戦の稲球会(関東・東京)×函館有斗ク(北海道)は、函館有斗クが棄権、稲球会の本大会初出場が決まった。

保坂副会長に勲3等

政府は11月3日、秋の叙勲者を発表、日本協会副会長・保坂周助氏(70才、神奈川協会々長)に勲3等瑞宝章が贈られる。

ハンドボール界では、本誌既報のとおり、荒川清美理事長の藍綬褒賞受賞が決まっており、お祝いつづきである。

ハンドボール・タウン

日本協会普及指導部が主宰する「土曜の集い」は12、1月にも開催されます。

12月は18日、1月は22日です(1月は第4土曜日です。ご注意下さい)。

時間は午後5時から7時まで。参加費は一人百円。会場はいつものように東京オリンピック記念東京青少年総合センター(電・〇三—四六七—七二〇一)です。

交通は京王帝都バスの「代々木5丁目」、小田急「参宮橋」、地下鉄千代田線「代々木公園」下車。

偉業かかる大同特殊鋼、立石電機

〜8日から全日本総合選手権(東京体育館)〜

波乱か6年ぶりのトーナメント法式

今年の総決算・ナショナルチャンピオンチームを決める第28回全日本総合選手権は、12月8日から12日まで（女子は9日から）、東京体育館に男子24、女子16チームが参加して開かれる。

男女とも6年ぶりにナックアウトシステム、いわゆるトーナメント法式が採用され、波乱にとんだ展開となりそうである。

栄冠の行方を占ってみよう（編集委員会）

リーグとの二本建て成る

◇男子　日本リーグの発足にともなって、日本協会は思い切りよくトーナメント法式の復活に踏み切った。

諸外国は「リーグ」と「トーナメント」の二本建てが定石で、後者は〃カップ〃と呼ばれ一本勝負の面白さがファンを引きつけている。

日本のハンドボール界も、遅ればせながら、この国際的な流れに乗ったもの。内容的にも、充分内外の期待に応えて欲しい。

さて、男子はなんといっても大同特殊鋼(愛知)の試合ぶりが焦点である。

48年度以来、すでに3年間全国タイトルを独占、今シーズンも全日本実業団(5月)、佐賀国体（10月)と優勝を9月)、佐賀国体（10月)と優勝をつづけ、4年連続全タイトル獲得という大偉業の樹立をこの大会にかける。

日本リーグでは、湧永薬品（大阪）に16—16で引き分けたが、その他の試合は危気なく勝利を握った。

全日本選手揃える大同

大同は、オリンピックにおける活躍でますます自信と迫力を増したエース藤中と円熟・中井を攻守の要に花輪、松原と4人のオリンピック代表が元気。このほか野田柳川弟、GK柳川兄ら現・旧全日本で固める布陣はスキがなく、特にその攻撃の多彩さは、ヨーロッパの一流クラスにヒケをとらないところまで来ている。

加えて、大原、中本、清崎らの若手も伸び、チームの厚味も充分だ。

組み合わせからみて、準決勝までの間につまづくことは、まず考えられない。

準決勝の相手は、三景(東京)、大崎電気（埼玉）あたりとみられるが学生1位(11月28日に決定)、大崎電気（埼玉）あたりとみられるがこのなかでは、佐々木、村田のコンビ攻撃をもつ三景が面白い。

守りのデキさえよければ、大同も簡単には押し切れぬ相手だ。

学生代表は、中央(東京)、大阪体大(大阪)、早稲田(東京)のうちから出ようが、日本リーグ勢の壁を突破できるのは、オリンピック代表・蒲生を切り札とした中央だけといっていい。

意欲の湧永、勢いづくか本田

もう一方のブロックは湧永薬品(広島)×本田技研鈴鹿(三重)の準決勝とみるのが順当。

湧永は今度こそ〃打倒大同〃を果そうと大変な意気ごみである。手ごたえもあるようだ。

穂積(オリンピック代表)、津川(全日本)の二枚を新しい看板に木野(オリンピック代表)、戸田兄、高橋、森らの巧者、松本、山本、藤本、戸田弟、GK福井らの若手新鋭組と選手層はまさに大同と互角。

本田技も、佐藤（オリンピック代表）、新実の左右両エースと金子、柳、田上、GK柴田（オリンピック代表）らが元気。攻撃の迫力は、むしろ大同、湧永をしのぐとさえいえるが、相変らず試合運びが一本調子だ。

ヘタをすると、日本リーグで白信をつけ意気あがる大阪イーグルス（大阪）にしてやられる不安もあるわけだし、一本勝負の波をどうつかむかこのチームほど、難しいところもない。

大阪イーグルスは、本田戦の前に、学生の挑戦をうけるが、これは2回戦屈指の好カード。

ダークホース大崎電気

こう眺めてくると、上位戦は日本リーグ勢の上位に占められそうだが、そこは勝ち抜き戦。充分、波乱も期待できる。

特に、復調の兆いちぢるしい大崎電気はダークホースの筆頭といってよく、三陽商会(東京)、日新製鋼呉(広島)の一発も無気味。

またスワロー兵庫(兵庫)、菊池(オリンピック代表）をエースにすえた稲球会(東京)、爽風会（三重）のクラブ勢や、新日鉄名古屋トヨタ車体(ともに愛知)、神戸製鋼(兵庫)、日本発条（神奈川）ら日本リーグ入りを目指す新進実業団のまとまりも軽視できない。

注目の学生界は、インター・カレッヂ（11月24〜28日・名古屋）を待って出場チームが決まるため予断を許さぬが、学生界だけのタイトル争いに満足せず、社会人勢の一角を打ち砕くような闘志を期待したい。なお、全日本自衛隊連盟代表は海上下総（千葉）から勝田（茨城）に代った。

立石、層の厚さ誇る

◇女子　久々に実業団10チームと競技法式が変わっても、やはり優勝争いは、例年どおり実業団・日本リーグ勢だろう。

なかでも、立石電機（熊本）に四冠の望みがかけられているのがポイントになる。

大洋デパート（熊本、席部）から移籍後、井監督をはじめ、島田、蔵田、山下、紀野、GK和田らは、オリンピック初出場という〃全日本の課題〃も負うことになり苦しんだが、5月の全日本実業団優勝で余裕が生じ、ようやく「立石のハンドボール」が芽をふきはじめている。

日本リーグでは東京重機(東京)に不覚をとり、佐賀国体では日本ビクター（茨城）との引き分け1位という、すっきりしない優勝だけに、今回は、きっぱり決めたいところだ。

オリンピック代表5人のほか篠田、平下、池渕、田島、実松、林

GK丸山と層の厚さは参加チームずい一。

連続優勝狙うビクター

立石に6－7、9－10、11－11(引き分け)と悔やしい成績(今季)の日本ビクターは、今度こその闘志に燃える。

日本リーグの〝得点王〟額賀がすっかり自信をつけたほか、若手の加藤、穂積の両オリンピック代表が安定してきている。

しかも池田の老錬な読みと、GK渡辺で、ディフェンスはまず不安がない。攻守のバランスでは、立石に優る。

初の2年連続にかける気力は、四たび立石と死闘をくりひろげることになるのではなかろうか。

〝二強〟を追うのは、組み合せから推せばブラザー工業(愛知)、東京重機(東京)、ジャスコ(三重)日立栃木(栃木)だ。

このうち、ジャスコが2回戦(＝準々決勝)で、立石にどうからむか面白い。

田村紡(三重、廃部)から移って、やはり、もう一つ落ち着きを取り戻せずにいるが、松下、河田GK久保のオリンピックトリオを軸に鈴木、林らでリズムをつかめば、立石も油断はできない。

重機×日立の対戦ももつれそう重機としては、日本リーグで復調のメドが立っただけに、ここを脱けて、もういちど立石↓日本ビクターと顔合わせしたいだろう。

古佐原(オリンピック代表)、折口の俊敏コンビに、村上の成長、横山、関、鈴木、町田らの進境があって、春とは比べものにならない。

日立は、新鋭・島田の頑張りと小根沢、桜庭、GK桑谷らでベストフォア進出が目標。

ブラザーは、ここ一番のもろさで、今季も鳴かずとばずに過してきたが、一本勝負は、むしろこのチーム向きとみる。波にのってビクター戦(準決勝)を迎えようものなら、大波乱を期待できる。

闘志期待の学生勢

上昇機運といわれる学生界からは4チームが出場するが結局のところ日体、東女体大の関東勢か。

1、2位はそれぞれ大崎電気(埼玉)、日立栃木が緒戦の相手だが、なんとかこの一戦をモノにするファイトを示せぬものか。

このほかでは、国体4位の佐賀一般女子選抜(佐賀)、日本リーグの面目にかける東北ムネカタ(福島)、地道な努力をつづける大和銀行(大阪)の試合ぶりが注目される。

なお、今年度から男女とも全国高体連代表の枠がなくなったほか女子の次年度国体開催地代表も廃止されている。

また、新システムの採用で、例年になく初出場チームが多く、現在の段階でも、男子は日本発条ら6チーム、女子はジャスコら4チームを数える。男子の新日鉄名古屋は富士製鉄名古屋時代の第21回(昭44)以来7年ぶりの出場。

女子に実業団が10チームも参加するのは第16回(昭39)以来12年ぶりと、記録的な話題も豊富。

また、第2延長を終って同点の場合、PTコンテストで結着をつけるというのも、全国大会では初の試みである。

◇………男　　子………◇

- 大同特殊鋼(愛知・前年優勝)
- 全日本学生選手権5位
- 日本発条(神奈川・実　連)
- 全日本学生選手権4位
- 茨城教員(茨城・教職員連)
- 三陽商会(東　京・NHL)
- 大崎電気(埼　玉・NHL)
- 新日本製鉄名古屋(愛知・実連)
- 全日本学生選手権1位
- 稲球会(東京・社会人東地区)
- スワロー兵庫(兵庫・教職員連)
- 三景(東　京・NHL)
- 本田技研鈴鹿(三　重・NHL)
- 神戸製鋼(兵　庫・実　連)
- 自衛隊勝田(茨城・自衛隊連)
- 全日本学生選手権2位
- 開催地(東京)代表
- 大阪イーグルス(大阪・NHL)
- 日新製鋼呉(広　島・NHL)
- 社会人西地区
- 全日本学生選手権3位
- トヨタ車体(愛　知・実　連)
- 佐賀教員(佐賀・教職員連)
- 湧永薬品(広　島・NHL)

試合	日時
大同特殊鋼 対 ⑧(全日本学生選手権5位×日本発条)の勝者	⑨10：40
⑧(全日本学生選手権4位×茨城教員)の勝者 対 三陽商会	⑨10：40
上記勝者同士	⑩10：40
大崎電気 対 ⑧(新日本製鉄名古屋×全日本学生選手権1位)の勝者	⑨13：10
⑧(稲球会×スワロー兵庫)の勝者 対 三景	⑨13：10
上記勝者同士	⑩13：10
準決勝	⑪16：00
本田技研鈴鹿 対 ⑧(神戸製鋼×自衛隊勝田)の勝者	⑨15：40
⑧(全日本学生選手権2位×開催地(東京)代表)の勝者 対 大阪イーグルス	⑨15：40
上記勝者同士	⑩15：40
日新製鋼呉 対 ⑧(社会人西地区×全日本学生選手権3位)の勝者	⑨18：10
⑧(トヨタ車体×佐賀教員)の勝者 対 湧永薬品	⑨18：10
上記勝者同士	⑩18：10
準決勝	⑪18：40
決勝	⑫16：05

◇………女　　子………◇

試合	日時
日本ビクター(茨城・前年優勝) 対 佐賀一般女子選抜(佐賀・社会人)	⑨9：30
全日本学生選手権4位 対 東北ムネカタ(福　島・NHL)	⑨9：30
上記勝者同士	⑩9：30
大崎電気(埼　玉・NHL) 対 全日本学生選手権1位	⑨12：00
和歌山県商工信用組合(和歌山・実連) 対 ブラザー工業(愛　知・NHL)	⑨12：00
上記勝者同士	⑩12：00
準決勝	⑪15：00
大和銀行(大　阪・実　連) 対 東京重機(東　京・NHL)	⑨14：30
全日本学生選手権2位 対 日立栃木(栃　木・NHL)	⑨14：30
上記勝者同士	⑩14：30
ジャスコ(三　重・NHL) 対 全日本学生選手権3位	⑨17：00
開催地(東京)代表 対 立石電機(熊　本・NHL)	⑨17：00
上記勝者同士	⑩17：00
準決勝	⑪17：30
決勝	⑫14：50

- ○内数字は日付、そのあとの数字は試合時間。(8日は14：00から19：10まで)
- TV中継は12日16：00～17：30(男子決勝)NHK教育テレビの予定。

成年女子 熊本（立石電機）、茨城（日本ビクター）ゆずらず
少年は男女とも〝高校王者〟強し
佐賀国体

「さわやかに、すこやかに、おおらかに」のスローガンのもと、第31回国民体育大会ハンドボール競技は、快晴に恵まれた10月25日から29日まで佐賀県神埼町・神埼高グランドに4種別5部門68チームが集って熱戦をくりひろげた。

コートサイドは、町をあげての歓迎ムードがみなぎり、しかも地元佐賀勢が3部門でベスト4に進出総合優勝（天皇杯得点）を飾る活躍もあって連日熱っぽい雰囲気だった。

優勝は、成年が男子（一般）・愛知、女子は熊本と茨城が第2延長を戦ってもなお結着がつかず、史上初の両者優勝という劇的な幕切れになった。

男・大同特殊鋼、女・立石電機はともに今シーズン「日本リーグ」、「全日本実業団選手権」、「国体」で優勝、12月の「全日本総合」に勝てば、4大タイトル獲得の偉業を遂げることになる。大同特殊鋼はこれで4年連続全国タイトル独占の野望に大きく近づいた。

少年は、男子が山口、女子が大分と、夏の全日本高校選手権優勝校・下関中央工、大分東高をもつ両県が快勝、揃ってダブルタイトルの栄光に輝やいた。

来年から一般と合体が確定的な成年男子教員は、今回が14年間にわたる〝最後の大会〟となったが、伝統の大阪が圧倒的な強味をみせて優勝した。

女子の総合優勝は4年ぶりで熊本県。来年の第32回国体は、10月2日から7日まで青森県七戸町に4種別80チーム参加で行われる予定。

成年男子・一般

▽1回戦

大阪（大山商会）25（10―9 15―6）15 秋田（下北手HC）

岡山（児島ク）17（8―10 9―6）16 熊本（熊本ク）

長野（オール長野）19（8―9 11―9）18 北海道（函館有斗ク）

福岡（西南ク）19（11―5 8―9）14 山口（徳山ク）

広島（菱風ク）32（12―5 20―6）11 滋賀（全滋賀）

高知（高知ク）19（9―11 10―3）14 青森（青森ク）

長崎（佐世保ク）27（15―5 12―4）9 栃木（AOK栃木）

兵庫（神戸製鋼）21（13―7 8―6）13 石川（金沢市役所）

○……いつになく好カードの並んだ1回戦。岡山×熊本は熊本有利とみられたが、岡山は塩尻、佐藤のシュート力を活かして前半なかばから優位に立ち、後半16分同点とされたが持ちなおし、26分17―14として逃げ切った。

長野×北海道は、後半10分10―16とされた北海道が、そのあと連続7ゴールを奪って逆転した。しかし、長野は25分18―18に追いついたあと、残り20秒森泉が決勝点をあげた。

福岡×山口は、先行を許していた福岡が後半になって押し気味となり、10分11―10としたあとは、GK井沢の堅守もあって押し勝った。

実業団同士、天覧試合の兵庫×石川は、後半15分13―10と予断を許さなかったが、優勢の兵庫は、山崎の連続ゴールなどで点差を拡げ、勝利を決めた。

埼玉、広島に逆転勝ち 長崎は福島を押し切る

▽2回戦

愛知（大同特殊鋼）25（14―3 11―7）10 大阪

神奈川（全神奈川）29（18―5 11―5）10 岡山

京都（京都ク）23（15―2 8―3）5 長野

東京（三景）20（11―5 9―4）9 福岡

埼玉（大崎電気）14（9―2 5―9）11 広島

高知 19（8―5 11―7）12 佐賀（佐賀選抜）

長崎 29（15―9 14―10）19 福島（SGク）

三重（本田技研鈴鹿）31（14―6 17―2）8 兵庫

○……注目の埼玉×広島は、三菱レ大竹と湧永薬品若手の混成による広島が、山本の巧技とGK藤本茂の好守でペースを握り、後半10分11―7とリードしたが、そのあとパスワークの乱れなどから追加点がなく、埼玉の追撃を許した。

埼玉は23分井田で同点のあと25分斉藤で逆転、さらに2点を加えて勝った。

長崎×福島は乱戦となり、後半18分19―17ともつれたが、長崎は田添、山高で6点を積みあげ25分25―17、快勝した。

三重×兵庫は、日本リーグ勢に実業団の新進がどう挑むか興味がもたれたが、前半15分早くも9―1と開き、実力差を示した。

地元の声援をうけた佐賀は、相手が上り坂の高知では荷が重く、善戦空しかった。

4強、文句なしの実力

▽準々決勝

愛知 38（20―7 18―4）11 神奈川

○……オリンピック代表を主力とした愛知は多彩な攻撃と、出足のよい守りで神奈川につけいるスキを与えず、圧勝した（野中 聡）

東京 29（15―5 14―7）12 京都

○……攻撃力の差が出て、勝負は前半で決まった感じ。しかし、勝った東京も、守備面ではミスが目立ち、簡単にゴールを許していたのは拙い。（三友英巧）

埼玉 35（21―5 14―6）11 高知

○……高知は15分3―7と食い下ったが、タテにタテにと突いてくる埼玉の攻撃を防ぎ切れず、このあとは一方的な展開になった。（佐伯紘一）

三重 46（26―5 20―9）14 長崎

○……選手のキャリアが違いすぎ

たため、勝負は問題にならなかったが、長崎が、最後まで一矢を報おうとする姿勢で試合を進めていたのは、いかにも国体の競技らしく、好感がもてた。（三友）

東京、前半の優位保てず

▽準決勝

愛知 25（17―9、8―10）19 東京

【愛知】		得
GK	柳川兄	0
	倉谷	0
FP	花輪	6
	松原	3
	中井	1
	柳川弟	4
	藤中	7
	中本	1
	野田	3
	大原	0
	北村	0
	清崎	0
	25（3） PT	

【東京】		得
GK	佐藤	0
	小林	0
FP	佐々木	4
	内藤	3
	山村	3
	川島	3
	飯島	0
	武内	4
	村田	2
	中馬	0
	PT（1）19	

（審・近藤・三友）

○……0―2から東京は3点奪取して先行、このリードを巧くつないで川島の好シュートを軸に前半をおえた。

後半、愛知は老巧・野田の攻守にわたる好リードで、全員の走力を活かした攻撃が復活、5分12―11と逆転、東京が焦りからミスをつづけたため、一気にたたみかけて20分20―15、主導権を握った。

東京も最後まで頑張ったが、愛知に比べて、守りの粘りに欠けた。（高橋洋治）

三重 26（12―12、14―6）18 埼玉

【三重】		得
GK	細野	0
	柴田	0
FP	田上	8
	佐藤	5
	喜井	1
	新実	4
	柳	0
	金子	4
	豊岡	0
	高木	0
	矢野	4
	川上	0
	26（2） PT	

【埼玉】		得
GK	福本	0
	原田	0
FP	斉藤	2
	大熊	5
	井手	3
	佐藤	2
	坂口	0
	前渕	4
	飯田	0
	東	1
	橋本	1
	椿原	0
	PT（3）18	

（審・中西・高橋）

○……新実、佐藤の左右両砲を軸とした三重の攻撃力はさすがに強健。埼玉も展開面では見劣りしなかったが、ディフェンスに甘さがのぞき、しだいに点差があいた。

埼玉は、後半互角の得点をあげたが、後半5分16―17と大差がついたあとからの反撃だった。

両県とも、日本リーグ加盟チームとあってラフプレーも少なく、スピーディな試合だった。（近藤正行）

▽3位決定戦

東京 16（8―10、8―5）15 埼玉

○……埼玉は立ちあがりまったく精彩がなく11分0―6とされた。

東京は、後半10分14―7と大差をつけ、そのまま終るかと思えたが、埼玉は守りの立ちなおりと、速攻の成功から、あっというまに点差がつまり、25分ついに15―15のタイスコアとなった。

しかし、東京は29分中馬がシュートをきめ久々に3位を確保した。（関谷和徳）

年次優勝都道府県（両杯制定は第3回）

		【天皇杯】	【皇后杯】
③	昭23（福岡）	大阪	大阪
④	（東京）	大阪	岡山
⑤	（愛知）	大阪	岡山・大阪
⑥	（広島）	岡山	岡山
⑦	（福島）	愛知	愛知
⑧	（愛媛）	大阪・北海道	北海道
⑨	（北海道）	大阪	大阪
⑩	昭30（神奈川）	愛知	福岡
⑪	（兵庫）	愛知	福岡
⑫	（静岡）	愛知	愛知
⑬	（富山）	大阪	茨城
⑭	（東京）	大阪	宮城・福岡
⑮	（熊本）	愛知	愛知
⑯	（秋田）	東京	愛知・茨城
⑰	（岡山）	愛知	熊本
⑱	（山口）	山口	山口
⑲	（新潟）	新潟	東京
⑳	昭40（岐阜）	岐阜	熊本
㉑	（大分）	大阪	熊本
㉒	（埼玉）	埼玉	埼玉
㉓	（福井）	熊本	熊本
㉔	（長崎）	長崎・埼玉	熊本
㉕	（岩手）	大阪	大阪
㉖	（和歌山）	和歌山	秋田・熊本
㉗	（鹿児島）	鹿児島	熊本
㉘	（千葉）	千葉	千葉
㉙	（茨城）	大阪	茨城
㉚	昭50（三重）	三重	三重・石川
㉛	昭51（佐賀）	佐賀	熊本

愛知ペース最後まで崩れず

▽決勝

愛知 25（12―9、13―8）17 三重

○……愛知がPT二本で先行すれば三重も新実、佐藤で追いつき期待どおりの好スタート。

三重は6分金子でリードしたが愛知はブロックプレー、サイド攻撃、ミドルなどと多彩な攻め技で三重守備陣をゆさぶり、藤中が密着されたハンデをはねのけた。

それでも三重は、後半25分6―8と粘ったのだが、そのあと4点を連続して奪われ、この場面が結果的にはヤマだった。

後半もペースは愛知のもの。速攻とブロックプレーで確実に加点一方、三重はノーマークを再三落とすなど追いあげられず、20分20―14と大勢が決まった。

三重は、いい形になりながら、最後の詰めが甘く、自滅といえた。

これで愛知は4連勝（通算6度目）。（古賀　昇）

【愛知】		得
GK	柳川兄	0
	倉谷	0
FP	柳川弟	4
	松原	3
	藤中	8
	中井	2
	花輪	4
	中本	2
	野田	2
	北村	0
	大原	0
	清崎	0
	25（3） PT	

【三重】		得
GK	柴田	0
	細野	0
FP	金子	2
	柳	0
	新実	3
	喜井	0
	佐藤	4
	田上	6
	矢野	2
	豊岡	0
	高木	0
	川上	0
	PT（3）17	

（審・佐野・岡前）

大同特殊鋼〝偉業〟へ前進

□……愛知代表の大同特殊鋼が、4年連続全国タイトル独占という驚異的な偉業へ、また一歩近づいた。

今大会は、ライバル・湧永薬品が広島移籍で姿を見せなかったこともあるが、まったくの独走といってよく、あっさり14連続全国大会優勝をマークした。

大阪、教員で4連勝（10度目）

成年男子・教員

▽1回戦（2試合）

千葉 20（11―8 9―4）12 鹿児島

岩手 28（16―13 12―8）21 富山

▽準々決勝

大阪（大阪イーグルス） 24（14―9 10―8）17 千葉

岡山 27（16―5 11―10）15 北海道（鶴陵ク）

佐賀（若楠） 36（16―7 20―10）17 高知

三重 33（14―12 19―5）17 岩手

○…全日本教職員（8月・青森）で〝打倒大阪〟の手ごたえをつかんだ千葉の試合ぶりに注目が集ったが、大阪はめずらしくスタートから一気にとばし10分5―1、先制された千葉は、前半なかばから浅原の3本のPTなどで追いあげ後半に興味をつないだ。

しかし、大阪は、後半開始直後再びスパート、10分16―10と開いて試合巧者ぶりを示した。

千葉は佐藤、松らで食い下ったものの、要所を大阪GK本田に阻まれて野望は成らなかった。

岡山×北海道は前半23分7―9とされた岡山が瀬島の4点連取で逆にリード、余勢をかって後半も森安を中心とする猛攻をみせ、16分20―10と勝負をきめた。

北海道は山本のシュート力を活かし好調にみえたが、後半は動きが鈍すぎた。

1回戦の岩手×富山は前半終了まぎわの好機を活かした岩手が主導権をがっちり握って制勝。

善戦目立った岡山4位に

▽準決勝

大阪 24（13―3 11―7）10 岡山

	【岡山】	得	【大阪】	得
GK	藤原	0	本田	0
GK	井上	0	広川	0
FP	森安	4	高橋	7
FP	瀬島	1	池本	4
FP	小林	2	足羽	2
FP	片山	0	安達	1
FP	永井	0	奥浜	1
FP	船越	0	河原崎	1
FP	藤本	1	田中	1
FP	佐藤	2	福井	4
FP	守安	0	北居	2
FP	川上	0	北岡	1
PT		(1) 10		24 (2)

（審・河本、野中）

○…岡山は10分まで森安の活躍で5―2とリードを奪っていたが地力に優る大阪は15分すぎから、じわじわと追いあげ、相手ミスに乗じるソツのなさもみせて20分には8―5と立ち場を変えた。

後半、岡山はゆっくりとしたボール廻しから、なんとか大阪を自分のペースに誘おうとつとめたが15分以降は1分おきにゴールを割られ、大差がついた。順当な結果だが、岡山の頑張りは賞していい

（片山彰一）

佐賀 18（11―7 7―10）17 三重

	【三重】	得	【佐賀】	得
GK	神谷	0	清水	0
GK	諸岡	0		
FP	夏目	2	鶴丸	0
FP	山内	4	井上	0
FP	坂本	3	柳本	5
FP	松ヶ谷	1	吉田	0
FP	川畑	3	小松	2
FP	宇尾野	4	久保田	0
FP	平賀	0	川原	10
FP	西村	0	仲里	0
FP	中森	0	磯口	1
FP	梶川	0		
PT		(0) 17		18 (2)

（審・柳井、片山）

○…前年2位の三重が15分5―1とした時は、その好ペースを守り切るかにみえ、事実、後半15分でも14―12と優位をキープしていたのだが、大声援をうける佐賀はエース川原の連続ゴールで17分ついに同点、21分にも川原が好シュートを放って18―17と逆転した。

三重も23分宇尾野でタイ、そのあと一進一退をつづけたが、勢いは完全に佐賀のもの。残り1分17―17から川原が、この日10点目を投げこんで激戦にケリをつけた。気迫に満ちた好試合。（山本忠嗣）

▽3位決定戦

三重 28（12―8 16―13）21 岡山

○…後半20分22―20とリードはされているものの、粘り強い岡山だけに予断を許さなかったが、三重は川畑、山内らの速攻で加点、どうにか振り切った。

岡山は攻撃の割りに、守りに甘さが残るのは惜しい。（関谷）

前半で振り切られた佐賀

▽決勝

大阪 26（7―9 19―7）16 佐賀

	【佐賀】	得	【大阪】	得
GK	清水	0	本田	0
GK			広川	0
FP	川原	5	高橋	1
FP	柳本	5	池本	8
FP	小松	4	足羽	2
FP	鶴丸	0	安達	4
FP	井上	0	奥浜	0
FP	吉田	0	河原崎	3
FP	磯口	1	田中	0
FP	久保田	0	福井	4
FP	仲里	1	北居	4
FP			北岡	0
PT		(2) 16		26 (3)

（審・佐野、岡前）

○…地元勢最初の決勝進出とあって異様な雰囲気で試合開始。

しかし、こうしたムードは大阪は何度も経験ずみ。気負いこむ佐賀に5分2―2と粘られたが、10分をすぎるあたりから速攻やミドル攻法でポイント、しかも佐賀守備陣がフェイントプレーに弱いとみるや、積極的な攻めこみで加点20分には13―5と差がついた。

後半、大阪のメンバー交代をついて佐賀も得点をあげたが、大勢をくつがえすには遠く、大阪は楽々と4連勝、10度目の優勝を決めた。なお、国体教員の部はこの試合が史上最後といわれる。（中洋海真一）

教員部門年次順位

	①	②	③
昭38	大阪	熊本	愛知
昭39	大阪	熊本	山口
昭40	福岡	岐阜	岩手
昭41	大阪	岐阜	大分
昭42	大阪	埼玉	福岡
昭43	大阪	埼玉	福井
昭44	大阪	埼玉	長崎
昭45	埼玉	大阪	岩手
昭46	兵庫	埼玉	和歌山
昭47	鹿児島	兵庫	埼玉
昭48	大阪	千葉	埼玉
昭49	大阪	茨城	千葉
昭50	大阪	三重	茨城
昭51	大阪	佐賀	三重

成年女子

佐賀、愛媛を押し切る

▽1回戦（2試合）

石川（北国銀行） 13（10―1 3―0）1 京都（京都ク）

福島（東北ムネカタ） 15（9―2 6―2）4 北海道（北海道選抜）

▽準々決勝

茨城（日本ビクター） 13（6―1 7―2）3 石川

佐賀（佐賀選抜） 15（6―4 9―2）6 愛媛（松商ク）

三重（ジャスコ） 23（14―1 9―3）4 山口（徳山ク）

熊本（立石電機） 16（8―2 8―2）4 福島

○…ハナから勝敗の行方が決まっているようなカードばかり。その中で佐賀×愛媛は、唯一の接戦を期待されたが、佐賀は練習量充分、危気なく押し切った。

愛媛は19分2―6に迫った場面と、後半15すぎ永井、本田で連続4ゴールしたプレーが、わずかに冴えただけに終った。

茨城×石川は、石川の挑戦に興味がかけられたが、茨城の早く強いディフェンスに攻撃の糸口をつかめず、一方的な経過だった。

三重、追撃とどかず

▽準決勝

茨城 23（14―2, 9―2）4 佐賀

	【佐賀】	得	【茨城】	得
GK	中村	0	渡辺	0
GK	田原	0	鈴木	0
FP	平石	1	蓮見	7
FP	宮地	1	額賀	5
FP	岩永	1	加藤	5
FP	岸川	0	穂積	4
FP	緒方	1	斉藤	0
FP	片江	0	小島	0
FP	実松	0	柴谷	1
FP	樋口	0	藤原	0
FP	重松	0	池田	1
FP	坂井	0		
（審・宍戸、中津海）				
PT		(0) 4		23 (2)

○……佐賀は軽快なパスプレーをみせたが、茨城の守りを乱すことはできず、そのプレス気味の陣型に、しだいにリズムを崩された。

茨城は、蓮見が絶好調で10分までに一人で5点を叩き出し、そのあとは額賀、加藤が当たって前半20分で大勢（12―2）が決まった。

佐賀も、なんとか食い下ろうとするが、かえってプレーが荒くなり退場3回、警告3回を課せられ傷口を拡げてしまった。（古賀）

熊本 13（8―2, 5―5）7 三重

○……トップチーム同士らしい好テンポの試合になったが、熊本はゴール前で大きく、速い動きから好機をつかみ蔵田、篠田らが好シュート、2本のPTも加えてリードを奪った。

	【三重】	得	【熊本】	得
GK	久保	0	和田	0
GK	加納	0	丸山	0
FP	平田	0	篠田	4
FP	松下	2	島田	1
FP	林	2	蔵田	4
FP	金田孝	1	紀野	2
FP	鈴木	1	池渕	2
FP	河田	1	平下	0
FP	笠	0	林	0
FP	若田	0	実松	0
FP			田島	0
FP			山下	0
（審・長野、古賀）				
PT		(1) 7		13 (2)

動きのコース、パス・ルートを覚えられた三重は、後半になってようやく変化がついて林の2得点などで16分7―11、残り時間からも反撃に期待がかけられたが、熊本は20分すぎ池渕がダメ押しの2点をあげ振り切った。スピード感は充分だったが、迫力という点ではやや物足りない。（佐野和夫）

▽3位決定戦

三重 18（9―4, 9―3）7 佐賀

○……三重のつぶしの早いディフェンスにあって、佐賀のパスプレーはなかなか得点機がつかめず、そのスキに三重は松下―河田のオリンピックコンビが久々にフル回転、15分8―2と主導権を握った。

佐賀も、ディフェンスはよく動いたのだが、攻撃のスピード、多彩さで一歩をゆずり、後半はスタミナ差もあらわれて大差がついた。（古賀）

70分の激闘、両者ゆずらず

▽決勝

熊本 11（8―6, 1―3 … 1―1, 0―0 … 0―1, 1―0）11 茨城
引き分け（両県優勝）

	【茨城】	得	【熊本】	得
GK	渡辺	0	和田	0
GK	鈴木	0	丸山	0
FP	額賀	1	篠田	2
FP	加藤	5	紀野	3
FP	穂積	2	池渕	1
FP	蓮見	0	島田	2
FP	池田	2	蔵田	3
FP	斉藤	1	平下	0
FP	小島	0	林	0
FP	藤原	0	実松	0
FP	柴谷	0	田島	0
FP			山下	0
（審・横瀬、岡村）				
PT		(3) 11		11 (2)

○……こういう結末は、両チームにも、見ていた者にも「あの時……」と悔やまれるプレーがあるものだが、それはあくまで結果論。70分の激闘を演じた選手に、ともかくも拍手を送りたい。

どちらかといえば茨城が押し気味。特に前半の劣勢を後半5分までに取り返し、一気に1点を先行した時はリズムに乗ったとみえたし、延長後も二度先行した。

熊本は、その都度、同点に追いつくのがやっと、逆転はできなかったのである。実力まったく互角とはこのことだろう。

全国大会の決勝で、延長の末、同点引き分け、両者優勝となった例は、過去に第9回全日本高校（昭33）女子、寝屋川（大阪）×熊本市立戦が唯1回あるだけ。実に18年ぶりであった。（荒川清美）

少年男子

愛媛、富山を破る

▽1回戦（2試合）

大分（高校選抜）13（5―5, 8―1）6 愛知（高校選抜）

愛媛（新居浜工高）14（5―4, 9―5）9 福島（全福島高校）

▽準々決勝

山口（下関中央工高）13（4―3, 9―5）8 大分

千葉（高校選抜）13（7―5, 6―7）12 兵庫（高校選抜）

佐賀（高校選抜）15（4―2, 11―3）5 北海道（釧路湖陵高）

愛媛 13（7―5, 6―3）8 富山（氷見高）

○……1回戦はともに後半に勝負が持ちこまれたが大分は速攻で、愛媛は8―9からみごとな粘りと組織プレーで逆襲に成功した。

2回戦（準々決勝）では、大分が夏の覇者・下関中央工に後半10分まで2点差で食い下さったが、そのあとは相手の多彩なプレーに攻めくずされた。

千葉×兵庫は後半なかばから兵庫が激しく反撃、残り2分11―12と通通しがつかなかったが、千葉は23分20秒大鐘（市原高）が貴重なシュートを決め、逃げこんだ。

単独校同士の愛媛×富山は、富山が後半9分7―9のあとシュートミスをつづけ愛媛の加点を許した。

佐賀、延長で愛媛降す

▽準決勝

山口 21（10―4, 11―7）11 千葉

	【千葉】	得	【山口】	得
GK	斉藤（市原）	0	井藤	0
GK	常住（市原）	0		
FP	鶴岡（市原）	2	飯山	6
FP	荒金（清水）	3	島中	2
FP	桐谷（市原）	0	清部	3
FP	藤田（市原）	0	篠田	2
FP	中村（市原）	1	東	3
FP	鳥越（清水）	0	林	5
FP	大鐘（市原）	5	松川	0
FP	河野（市原）	0	浜本	0
FP	長谷川（清水）	0	河村	0
FP	山口（明徳）	0		
（審・佐野、岡前）				
PT		(0) 11		21 (0)

○……千葉の雑な攻撃に対し、山口は速攻、ポストなどのびのびとプレー、後半5分14―4の大差。

千葉もそのあと連続6ゴールするなどしたが、ノーマークをはずす惜しい逸機もあり追い切れなかった。（中津海）

佐賀 13（2―2, 7―7 … 1―2, 3―0）11 愛媛

○……延長前半2点を先行された佐賀はPTで1点差としたあと、後半開始直後、池田で同点、2分平尾、3分左腕・三好と波にのった攻撃で大敵を降した。

愛媛は、後半10分までに森の巧技で7―3と優位に立ちながら、

得	【愛媛】		【佐賀】	得
0	宇野	GK	江越（佐賀商）	0
0	藤本	GK	片渕（佐賀農）	0
0	城戸	FP	三好（神埼農）	5
1	島田	FP	平尾（神埼農）	3
5	森	FP	池田（佐賀商）	3
3	日野	FP	南里（佐賀商）	0
0	高木	FP	辻（神埼農）	2
2	定岡	FP	馬場（佐賀農）	0
0	福田	FP	田中（佐賀農）	0
0	十亀	FP	黒木（佐賀農）	0
0	明日	FP	志岐（神埼農）	0
0	大野	FP	松本（神埼農）	0
11	（3）	PT	（2）	13

地元の声援をうける佐賀を振り切れず、残り5分、2点のリードも活かせずに終った。（高橋）

▽3位決定戦

愛　媛 14（6－7、8－4）11 千　葉

○……スピーディな攻防戦となったが、愛媛は終了3分前11－11から森と明日の連続ゴールで決定的な3点をあげ、3位に入った。

試合は、千葉が大鐘、鶴岡で先制してからつねにリードを奪い、愛媛はPTの失敗などあって苦しかったのだが、最後になり単独チームのまとまりがモノを云った。（山本）

山口、立ち上りから圧倒

▽決勝

山　口 21（12－4、9－3）7 佐　賀

○……44年につぐ二度目の夏との二冠を狙う山口・下関中央工は、いきなり多彩なフォーメションを駆使、スカイプレーなど鮮やかに決めて、10分7－1と差をつけてしまった。

得	【佐賀】		【山口】	得
0	江越	GK	井藤	0
0	片渕	GK		
2	三好	FP	飯山	1
1	平尾	FP	島中	5
2	辻	FP	溝部	6
1	志岐	FP	篠田	5
1	松本	FP	東	1
0	池田	FP	林	3
0	南里	FP	松川	0
0	馬場	FP	浜本	0
0	田中	FP	河村	0
0	黒木	FP		
7	（0）	PT	（1）	21

この先制攻撃に佐賀はすっかりペースを崩されてしまい、下関ディフェンス陣の厚い壁をゆさぶるだけの動きがなく、点差は開く一方。下関の強さ、素晴しさをまざまざとみせつけた一戦だった。

佐賀は、連日強敵を破る健闘を示し、天皇杯得点に貴重なポイントを加えたのは賞されよう。（岡村　久）

少年女子

岐阜、大阪、山口の反撃遅し

▽1回戦

石　川（小松市女高） 5（4－1、1－3）4 山　口（高校選抜）

千　葉（昭和学院高） 7（6－0、1－5）5 岐　阜（高校選抜）

愛　知（高校選抜） 6（5－1、1－4）5 大　阪（高校選抜）

兵　庫（高校選抜） 14（4－2、10－1）3 北海道（函館商高）

熊　本（高校選抜） 14（6－2、8－2）4 茨　城（高校選抜）

秋　田（和洋女高） 12（5－2、7－2）4 愛　媛（高校選抜）

○……強豪同士の愛知×大阪は愛知が前半終了間ぎわ川崎（岩津高）の連続3ゴールで4点差をつけ、絶対有利となった。

しかし、大阪は後半、相手の荒い守りから得た二本のPTなどで追いこみ、19分松井（大谷高）でついに同点（5－5）とした。後半無得点の愛知は20分になりPTでようやく得点、これが決勝点にもなった。

石川×山口も劣勢の山口が追撃して、あるいは一気に逆転するかとみえたが、石川は4－3とされたあと、GK酒谷がたたきこんだ1点がモノを云い、山口は15分伊ケ崎（徳山高）で再び1点差と粘ったものの及ばなかった。

千葉×岐阜は、前半一方的に得点を重ねた千葉が、後半は18分間ノーゴール、この間に岐阜は則武（富田女高）の好シュートで食い下ったが、千葉は19分ようやくダメ押し点をあげ、辛勝した。

このほかの3試合は、攻撃力の差に加え、ディフェンスでもはるかに動きが優り、予想外の大差がついた。

千葉、秋田に逆転勝ち

▽準々決勝

大　分（大分東高） 14（7－2、7－1）3 石　川

○……早い帰陣を応しゅうさせた見応えのある序盤戦からしだいに大分が優勢。特に菅本清のジャンプショットがよく決まって、石川は苦しい戦局とされた。

後半も大分はスピードのある攻撃で石川を崩し、8分11－2と予想外の大差がついた。

大分・菅本姉妹の動きが一際光ったが、勝負を分けたのは守りの強弱といえる。（野中）

熊　本 6（3－3、3－2）5 愛　知

○……愛知の強い当りに熊本は攻撃のリズムがつかめず、5分3－1としたあと22分間無得点。この間に愛知は川崎のロングシュートで追いあげ、後半7分には辻本（市邨学園高）がPTを決め逆転した。

熊本はPTを失敗するなど苦しみながら、藤本（熊本女商）の連続ゴールでどうにか立ちなおり、いちどは愛知・山木（市邨学園高）に同点とされたが、13分平野（熊本女商）の決めた1点をだいじに守って逃げこんだ。（高橋）

千　葉 7（3－4、4－1）5 秋　田

○……前半15分1－3とリードされた秋田は池田の巧技などで逆転したが、千葉も後半3分PTで同点。互いにチャンスをつぶしあったあと千葉は10分すぎ成田、鈴木で点を連取、そのまま押し切った

秋田は前半、GK鈴木の堅守で千葉をおさえながら、15分間無得点という貧攻がひびいた。（野中）

兵　庫　8（2—4／6—3）7　佐　賀（少年女子若楠）

○……PTをつづけて失敗するなど固さののぞく佐賀をついて兵庫は15分まで先行していたが、佐賀は17分北島（神埼農高）で初のリードを奪った。

これで佐賀は落ち着くかに思えたが、兵庫は後半5分までに大崎（夙川学院）が2ポイントして同点佐賀は9分佐藤(佐賀女高武雄)で5—4としたものの、そのあとシュートミスがあり、兵庫の逆速攻をうけて、せっかくの主導権を手放した。（中西敬一）



〔写真〕　少年女子決勝・大分×千葉(攻)。大分東高単独の大分は強固なディフェスで"2冠"を達成　　（撮影・山田真市）

熊本、大分を苦しめる

▽準決勝

大　分　11（3—6／8—2）8　熊　本

（注）熊本は西田が熊本市立商、他の選手はいずれも熊本女商。

○……熊本の動きはよく7分4—0と快調のスタートを切った。

一分、大分はいつになくシュートコースが甘く12分間無得点だったが、前半なかばにどうにか調子が整った。

後半に入るや大分は大戸井のポスト、菅本清のミドルで初めて同点としたが熊本も6分PT（桑原）7分藤本で「リード」、「あるいは…」と思わせた。

	【熊本】	得	【大分】	得
GK	丸山	0	大平	0
GK	井村	0	川津	0
FP	上蔀	1	北山	0
FP	藤本	2	菅本豊	0
FP	平野	2	穴見	2
FP	桑原	3	藤沢	0
FP	松岡	0	那須	0
FP	福永	0	菅本清	3
FP	岡木	0	姫野	4
FP	千原	0	大戸井	2
FP	橋本	0	松岡	0
FP	西田	0	上野	0
		8（1）	PT	11（1）

（審・中西、高橋）

しかし、大分はそのあと一気に4点を奪う底力をみせ、ディフェンスも立ち直って健闘の熊本をねじふせた。（関谷）

千　葉　8（5—3／3—3）6　兵　庫

	【兵庫】	得	【千葉】	得
GK	野崎（夙川学院）	0	阿久根	0
GK	西川（神戸商）	0	大崎	0
FP	寺東（夙川学院）	0	染谷	0
FP	田川（夙川学院）	0	嘉悦	2
FP	福井（夙川学院）	1	大羽	0
FP	大崎（夙川学院）	1	鈴木	1
FP	清水（北条）	3	中野	0
FP	酒井（明石南）	1	成田	5
FP	武田（甲子園学院）	0	湯浅	0
FP	沢村（鈴蘭台）	0	井上	0
FP	河本（明石北）	0	沢口	0
FP	三好（神戸商）	0	浜中	0
		6（1）	PT	8（2）

（審・堀之内、関谷）

○……互角の前半から、後半、千葉は嘉悦と成田が交互にポイント15分8—4と主導権を握った。

兵庫は、終盤、福井、大崎で粘ったが、あと一歩足りず、千葉にかわされたのは惜しい。（岡村）

▽3位決定戦

熊　本　13（6—1／7—3）4　兵　庫

○……セットプレーに優る熊本が兵庫守備網を破って着々加点、走力でも相手を圧しての快勝だった。

兵庫もよく動いてはいたが、肝心のシュートが拙く、後半10分1—10と開かれた。（岡前義春）

大分、多彩な攻撃示す

▽決勝

大　分　11（4—3／7—2）5　千　葉

	【千葉】	得	【大分】	得
GK	阿久根	0	大平	0
GK	大崎	0	川津	0
FP	染谷	0	北山	0
FP	嘉悦	3	菅本豊	4
FP	大羽	0	穴見	1
FP	鈴木	0	藤沢	0
FP	中野	0	那須	0
FP	成田	2	菅本清	1
FP	湯浅	0	姫野	5
FP	井上	0	大戸井	0
FP	沢口	0	松岡	0
FP	浜中	0	上野	0
		5（0）	PT	11（0）

（審・柳井、片山）

○……混成が認められて以来、単独高校同志の決勝は7年ぶり（2度目）。

二冠を目指す大分は、立ちあがり堅さがみられ、千葉に先行を許したが、10分すぎからリズムにのって速攻、サイド攻撃、FTからの変化で主導権を奪いとった。

後半5分5—4となお予断を許さなかったが、大分は菅本姉妹の強肩と姫野の速攻でチャンスを活かし15分10—5、ほぼ大勢を決め18分菅本豊がダメ押しの1点を加えた。

千葉も持ち味を発揮して実力いっぱいの試合ぶりだったが、やはり総合力で大分に一歩をゆずった（佐伯）

佐賀が初、熊本4年ぶり

◇天皇杯(男女総合得点)順位①佐賀＝初優勝②三重③熊本④山口・大分⑥千葉⑦愛知⑧愛媛⑨茨城

◇皇后杯（女子総合）得点順位①熊本＝4年ぶり8度目②大分③佐賀④茨城⑤千葉・石川⑦三重⑧兵庫

選手と地元民ピッタリ

□……縮少ムードなどあって、盛り上りが心配された佐賀国体だが神埼町のハンドボール会場にかぎっては、むしろ史上最高ともいえる熱気がみなぎった。

それというのも、参加選手、役員のほとんどが民泊となり、それぞれの家庭が、家族ぐるみで選手やチームの応援にかけつけたからだ。

□……大会が進むにつれ町の人たちの熱狂はエスカレート、覚えてのお国なまりがとびかって、まさに"神埼合衆国"。

成年男子で優勝した愛知が、民泊家庭のご主人をまっさきに胴上げしたのをはじめ、連日、選手と地元の交歓風景が描き出され、別れぎわ、駅前でホホをぬらす選手や家の人たちもいたほど。

佐賀勢の躍進もあり「これほど観衆が集った国体は過去にない」（日本協会荒川理事長）という活況のうちに幕がおりた。

≪モントリオール特集・第4回≫

数字で見るオリンピック

モントリオール・オリンピック大会当局がオフィシャルやプレスに配布した「資料分析」を編集委員会では手にいれた。専門畑のかたは、それなりのみかたがあろうが、私なりに「数字でみるオリンピック」をこしらえてみた……

青木　敬子（本誌編集委員）

今回のオリンピックで日本ハンドボールは長年の念願であった〝男女出場〟を成し遂げた。

しかし残念ながらヨーロッパの壁は依然厚く、男女共、当初の目標は達成できなかった。

数字だけですべてを決めるのは危険かもしれないが、データを基に分析してみたいと思う。

○……男　子……○

バレーボールやバスケットボールでは決して珍しくはなくなったが、ハンドボールにもついに2m選手がでてきた。

本題に入る前にぜひ言いたい。今度のオリンピックで世界のハンドボールはまた大きく変わった。ソ連の優勝がそれを物語っているように思える。

まず攻撃面からみよう。ソ連のシュート率60％強というのが光る。勝つためにはやはりそれだけの得点力がなくてはならないし、その点でシュート214本―134点は頼もしい。

しかしシュート率のいい国が必ずしも上位という訳ではない。

日本は123点で得点3位だが、打ったシュートも264本といちばん多く、シュートの甘さがまだ感じられる。不成功の内容から見ても明らかである。特に相手FPに阻止されるのが多い。

もう少し能率よく得点をあげられれば、ディフェンス面の弱点もかなりカバーできるのでは……。

＜注＞攻撃回数とはマイボールになった回数

日本、やはり速攻中心

日本のお家芸である速攻（次頁）は第2位となっており、総得点の23％にあたる。やはりこれから先も日本の速い攻撃は大切にしていって欲しい。

国別では速攻が西ドイツ（成功率64・5％）、PT（次頁）はルーマニア（85％）がずば抜けている。

パワー示すポーランド

得点の決まったコースという分析がある。

……得点コースの内訳……

	Wing	6m	9m
ユーゴ	12	58	39
ソ連	18	53	41
日本	19	50	32
西ドイツ	14	57	30
デンマーク	28	31	23
ハンガリー	10	61	13
チェコ	25	38	26
ルーマニア	17	44	28
ポーランド	19	35	37
アメリカ	18	39	31
カナダ	15	29	21

（注）このほかにPT得点～別掲～

Wingというのは、日本でいうサイド（左右）、6mはフリースローラインとゴールエリアライン内の各地点から放たれたもの、9mはフリースローラインより後方から射ちこまれたロングシュートと解釈したい。

現代ハンドボールの傾向を示すにたる数字だが、ポーランドが6mより9mが上回るのは興味深い。クレムペル（192cm）、メルセル（196cm）というジャンプ力抜群の45度シューターが居たためと思う。

打たれない西ドイツ

守備面ではソ連が2mトリオの強みを発揮している。6試合で失点92はすばらしい。

阻止率でもナンバーワン。FPのブロックも22と鉄壁を誇る。GKイチエンコ（191cm）の定評が裏

男子各国の攻撃データー

	試合数	攻撃回数	ST	得点	ST率	ST不成功の内容（回数） GK阻止	ブロック	ミス	ポストに当る
ソ連	6	210	214	130	0.607	50	8	11	15
ルーマニア	5	180	196	106	0.541	55	13	11	11
ポーランド	5	195	207	101	0.488	65	4	19	18
西ドイツ	6	212	222	115	0.518	76	6	11	14
ユーゴ	6	245	253	131	0.518	70	8	20	24
ハンガリー	5	198	203	111	0.547	54	7	14	17
チェコ	5	200	199	110	0.553	58	4	12	15
デンマーク	6	259	261	113	0.433	96	12	21	19
日本	6	213	264	123	0.466	86	20	12	23
アメリカ	5	253	216	100	0.463	68	12	17	19
カナダ	5	207	162	75	0.463	56	9	16	6

男子各国の守備データー

	試合数	失点	被ST	阻止（回数）	阻止率	阻止の内容（回数） GK	FPのブロック	被ST1試合平均
ソ連	6	92	218	94	0.431	72	22	36.3
ルーマニア	5	90	179	57	0.318	51	6	35.8
ポーランド	5	89	186	77	0.414	68	9	37.2
西ドイツ	6	97	210	83	0.395	72	11	35
ユーゴ	6	112	250	104	0.416	87	17	41.7
ハンガリー	5	103	205	76	0.371	70	6	41
チェコ	5	103	208	67	0.322	58	9	41.6
デンマーク	6	127	237	81	0.342	75	6	39.5
日本	6	131	252	83	0.329	78	5	42
アメリカ	5	149	248	63	0.254	60	3	49.6
カナダ	5	122	204	52	0.255	43	9	40.8

付けられる。
ユーゴは日本同様、数多くのシュートを打たれながらよく止めている。
また、被シュート平均では西ドイツが35で「打たれない」という点ではソ連よりも上回っている。
日本の弱点である守りは、はっきりと数字にでている。この問題は一昔前からいわれているが、なかなか難しい。最初にして最後の課題だろう。

ソ連、順当な優勝
日本守りに課題示す

○……女　子……○

女子は男子と違い、シュート率と順位がぴったり合っている。
日本は男子と同じにシュート数では195本といちばん多いがあまり得点に結びついていない。GK、FPのブロックに止められる数が多いのに気づく。パワー不足を隠せない。170cm台の選手がひとりもいないのも大きなハンデとなる。
男子が2m台なら、女子は180cm台が現われてきたのである。
入賞したことはすばらしいことだし、うれしいが先のことを考えると問題はたくさんあるように思う。
得意といわれる速攻も今回は通用しなくなってきている。
逆にヨーロッパが上をいきはじめた。

得点コースの内訳

	Wing	6m	9m
ソ　連	8	44	23
東ドイツ	10	46	17
ハンガリー	4	50	19
ルーマニア	9	28	37
日　本	8	28	15
カナダ	3	14	6

(注)このほかにPT得点～別掲～

得点コースの内訳は上表のようになるが、やはり女子は、ポストプレー、カットインプレーがまだまだ主戦武器ということができようか。
サイド攻撃が増えたといっても得点に結びつくケースは数字的に低い。
ロングシュートによる得点力はルーマニアが、6m地点とほぼ同数を示す。ルーマニアのシュート失敗のうちGK阻止が日本(69)についで55と多く、今回4位に甘んじたのは、この強引さが裏目になったともみれる。
そのルーマニアと日本は1点を争うシーソーゲームを演じ、結局20―21で惜敗しているが、この試合のST(シュート)成功率は日本45%、ルーマニア60%。
1点差とはいえ、みかたをかえるとこれだけの差があったのである。
速攻(次頁)について、もう少し分析すると、日本は昨冬の世界選手権で82回36得点、成功率44%(本誌138号)をマーク、トップの実力を示していたが、わずか半年間で25%に落ちたのは「覚えられた」からだろう。
いかなる攻撃戦術をあみ出すかが、今後の日本のテーマだ。
守備面では、ソ連が射たれたSTの半数(75本)を阻止しているのは驚異的な数字だと思う。1試合平均失点も8と、男女を通じ唯一の一桁台である。
守りのチームといわれた東ドイツでさえ、平均失点は94。
日本はソ連戦31失点、ハンガリー戦25失点、東ドイツ24失点と精彩がなく、平均では23と、カナダ(21・2)よりも下のランク。ディフェンスにもまだまだ課題が多いことを物語っている。
ハンガリー戦の失点のうち8点は速攻を受けてのもの。お株を奪われた感じ。
被ST平均は、東ドイツとハンガリーが30を切っており、底力を見せつけている。
PTは、日本が得失とも目立って多い。
攻防画面における、こまかく、小さな動きが、PTにつながるといえよう。
成功率ではソ連が58%と高く、日本(84%)がこれにつぐ。
カナダが全得点の34%がPTによるものなのは、攻撃の非力といえなくもない(日本は29%)次に体格をみよう

PTの成否

〔男　子〕	得たるPT	得点	課せられたPT	失点
ソ　連	24	19	25	18
ルーマニア※	20	17	24	16
西ドイツ	19	13	37	24
ポーランド※	19	10	22	17
ユーゴ	31	22	26	21
ハンガリー※	36	27	21	14
デンマーク	40	31	20	12
チェコ※	27	21	20	16
日　本	30	22	28	20
※印は5試合				
〔女　子〕				
ソ　連	20	17	15	10
東ドイツ	23	16	17	14
ハンガリー	16	12	21	16
ルーマニア	14	9	20	15
日　本	25	21	22	17
カナダ	15	12	18	15

女子各国の攻撃データー

	試合数	攻撃回数	ST	得点	ST率	ST不成功の内容（回数） GK阻止	ブロック	ミス	ポストに当る
ソ　連	5	172	159	92	0,579	33	9	10	15
東ドイツ	5	155	165	89	0,539	43	1	16	16
ハンガリー	5	171	161	85	0,528	41	4	17	14
ルーマニア	5	179	170	73	0,429	55	9	11	22
日　本	5	214	195	72	0,369	69	21	18	15
カナダ	5	202	130	35	0,269	60	8	17	10

女子各国の守備データー

	試合数	失点	被ST	阻止(回数)	阻止率	阻止の内容（回数） GK	FPのブロック	被ST1試合平均
ソ　連	5	40	151	75	0,500	62	13	30,2
東ドイツ	5	47	136	57	0,419	44	13	27,2
ハンガリー	5	55	144	64	0,444	56	8	28,8
ルーマニア	5	83	162	53	0,327	47	6	32,4
日　本	5	115	189	51	0,270	45	6	37,8
カナダ	5	106	198	53	0,268	47	6	39,6

3割近い191cm以上の選手

男子は、ミュンヘン大会の時10名を数えた170～175cm台が5名に減り、196cm以上が5名から一挙に13人、ついに2m台の選手も登場（ソ連3、西ドイツ1）し、ますます長身化している傾向を示した。190cm台の選手がいない国は、ミュンヘン大会では日本、スペインの2カ国だったが、今回はチェコだけ。

―男子の身長(cm)―

・170～175	5名
・176～180	28
・181～185	38
・186～190	50
・191～195	32
・196～199	9
・200以上	4

アメリカの9人、西ドイツの8人などが特に目立つ。191cm以上の選手の比率は27%だ。

女子も大きくなっている。180cm台こそ、昨冬の世界選手権の数字（6名）を下回ったが、日本（ナショナルチーム）には一人もいない171cm以上を39名がマークしており、一昔前の男子を想い出させる。

―女子の身長(cm)―

・159以下	1名
・160～165	17
・166～170	25
・171～175	26
・176～179	8
・180以上	5

平均身長最高のハンガリーは実に173・5cm。昭和42年1月の第6回世界男子選手権（スウェーデン）に出場した当時の全日本代表チーム（15名）の平均身長は174・5cmであり、今回のハンガリー女子とは1cmしか違わない。

なお、最長身選手は男子がアンピロゴフ(ソ連)203cm、女子がトース・ハルサニ(ハンガリー)186cm。

もっとも背が低い選手は男子が佐々木健一171cm、女子が古佐原ひろ子153cmの日本勢。

最重量選手は男子がパス（ハンガリー）の110kg(194cm)、女子がミクロス（ルーマニア）とシェナール（カナダ、GK）の80kg。

最軽量選手は男子がヤコブスガルト（デンマーク）の70kg(180cm)女子が古佐原48kg。

なお、余談だが男子の最年長者はクリモフ（ソ連）36才、最年少者はクリステンセン(デンマーク)17才7カ月。女子の最年長者はブイドソ（ハンガリー）33才、最年少者はボーモン（カナダ）の17才だった。

―速攻の成否―

	速攻回数	得点	成功率
〔男　子〕			
西ドイツ	31	20	0.645
日本	52	28	0.538
ソ連	42	22	0.524
ハンガリー	42	21	0.500
ルーマニア	27	12	0.444
チェコ	26	11	0.423
ポーランド	19	8	0.421
ユーゴ	25	8	0.320
デンマーク	25	6	0.240
〔女　子〕			
ハンガリー	31	20	0.645
ルーマニア	25	16	0.640
東ドイツ	48	27	0.563
ソ連	29	15	0.517
日本	28	7	0.250
カナダ	16	4	0.250

データもとに 長期計画を

何か数字で見ると日本の弱点ばかりが目立ってしまう。

事実、体格、体力の面で日本はまだ遅れをとっている。

それをカバーするよう考えられてはいるが、いつも最後は押し切られてしまう。

ヨーロッパの力は計り知れないものがあるが、この先いかにして差を縮めていくか。

本誌前号、前々号に寄せられた選手原稿によれば、日本のハンドボールの前途はけして悲観的なものではない。

むしろ、戦術的には、ヨーロッパ一流国にけしてヒケをとらぬということもいわれる。

こうしたことは、今回のデーターには打ちこまれてこないわけだが、やはり、スピードとパワーが全盛の現在では、少くとも、ここに表われた数字というものを、より高める必要があるのではなかろうか。

そのためには、ナショナルチームの強化を、その場々々で企るのではなく、ぜひ長期的な展望に立った"強化計画"が不可欠だと思う。

データーを見る限りでは、「ヨーロッパ強し」という言葉がぴったり――というのが、私の結論である。

NHKでモントリオール決勝

モントリオール・オリンピック男子決勝、ソ連×ルーマニアの熱戦が、12月4日午後4時から1時間、NHK総合テレビの「モントリオール・ボールゲーム決勝シリーズ第1集」として放映される。

会場のモントリオール・フォーラムは、一万四千の大観衆が集まり、終始、熱狂したムード。

世界の最上位に立つ両国だが、世界選手権やオリンピックの決勝で顔合せするのは初めてだった。

試合は、すでにご承知のとおりソ連が、仕掛けの早い攻撃で着実にポイント、19―15で勝ち、女子と揃って優勝という偉業を遂げる世界チャンピオン・ルーマニアは、いつになく鋭さに欠けた。

みどころの一つは、ソ連GKイチエンコの堅守だ。

制作は、カナダ放送団（ORTO）、アナウンスはNHKの鈴木文弥氏。

なお、日本は、ソ連と予選リーグA組で対戦16―26。

▽男子決勝

ソ連 19（10―6, 9―9）15 ルーマニア

○……両国メンバー……○

	年齢	身長	職業
【ソビエト】			
GK①イチエンコ	26	191	軍隊教官
⑫トミン	27	178	事務員
FP③マキシモフ	30	186	教員
⑦クリモフ	36	189	技師
⑩チェルニショフ	29	202	事務員
⑬キドヤエフ	21	176	事務員
⑥クラフゾフ	26	174	学生
⑭レザノフ	27	197	技師
⑨アンピロゴフ	22	203	学生
⑪ガシイ	27	189	大学院生
④クシニリュク	20	202	学生
②フェディユキン	24	180	教員
【ルーマニア】			
GK①ペヌ	30	191	技師
⑫ムントアヌ	24	187	体育指導者
FP③ガツ	30	177	技師
⑨ビルトラン	27	194	軍人
⑭グラボフスチー	23	196	学生
⑥ボアナ	26	185	体育教師
⑩コスマ	26	180	学生
④リク	30	186	体育教師
②キクシト	28	194	体育教師
⑦グネスク	32	197	技師
⑪ツドシエ	26	188	体育教師
⑬ストックル	24	188	学生

○内数字は背番号

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

組織あげてのチーム造りを
～モントリオールの反省は唯一つ～

杉山　茂

今回の日本チームの成績について、それぞれの見方から、いろいろな評価が生まれているようだが私は、男女とも、現段階で考えられる最良の成績を収めた、とみている。

問題は、今後いかに進むべきかなのだが、この方は、卒直のところ、とても悲観的である。

というのは、今回も、また過去の世界選手権、オリンピックでもナショナルチームを組織で造り出した印象が、極めてうすいからだ

物心両面日本ハンドボール界あげてナショナルチームを後押ししてはいるが、それは、送り出しているのであって、造り出しているのとは違う。

ヨーロッパとの差は、技術や戦術や、ましてや点差ではなく、組織が造り出したチームと、そうでないチーム(日本)との差である。

モントリオール出発前、男子ナショナルの主力選手の一人は私に「卒直にいって、日本のハンドボール界のため一肌脱ごうという気は起こらない。

自分個人の競技生活の〝結晶〟として、オリンピックに行ってくるつもりだ。思う存分、暴れられたらそれでいい」と云ったものだ

私は、今の選手は〝現状〟をよく見ているものだと思ったし、日本協会の頂点強化体制が遅れをとっていることを改めて感じさせられた。

私は、外国で、日本チーム(ナショナル)が戦うのを、今回初めてみたが、国内でみた彼らの国際試合のどれよりもみごとな攻守であった。

もし、これが、組織が造り出したナショナルチームによってのものだったら、どれだけ、前途に明るい希望がもてるだろう。

残念ながら、この〝成果〟は、今回だけの仇花に見える。

日本協会に、モントリオールの反省として、まっさきにして欲しいのは、この点だ。

日本協会は、過去、ナショナルチームを、どれだけ「自分のチーム」としてみてきただろう。

急ごしらえのチーム編成と強化で、その場々々を、辛くも乗り切ってきた。今回も、そうしてかち得た9位(男)と5位だ。

しかもそれは、前述の主力選手のいうような「一人々々が、自分のために戦って」のものである。

アマチュアスポーツの精神という点からは、それで充分だろうか

ナショナルチームに限っては、これでは困る。

日本協会が、組織としてナショナルチームを造り、鍛え、そして送り出さねば、この先、前進はあり得ない。

11月の全国代議員会で、「選手強化部」の復活が決まったようなので、とりあえずは、その動向を注目していたいが、少くとも、これまでのような日本協会―ナショナルチームの関係では多くを望めない。

1カ月にいちど、執行部と強化部・コーチングスタッフの合同会議を開くのもいいだろうし、強化部とコーチングスタッフは、毎週1度会議をもつぐらいの気構えが欲しい。

そうした場で、徹底的に、ナショナルチームを考え、論じ、明日への道を探しだすべきだ。

その施策を執行部を通じ、全国に理解してもらう努力も欠かしてはならない。

監督、コーチの個性が発揮されるのは、そのあとからだ。

私は、ある時は内部、ある時は外から取材する立ち場に居て、ナショナルチームが、「日本協会のチーム」なのかどうか、疑問に思うシーンが、しばしばあった。

これは、執行部にも、チームサイド(強化スタッフ)にも責任がある。

選手たちが本誌でいうように、モスクワへの戦いは、もうすでに始っている。若い選手たちは、秘かに、モスクワを目指して、自らを鍛え、自らを励ましている。

その時――日本協会は、ナショナルチームの明日について、何を発表した、というのだろう。

2年後の世界選手権も、4年後のモスクワオリンピックも、組織として送り出すだけでよいのだろうか。

個人の努力にたより、支えられたナショナルチームなど、時代遅れすぎる。

モントリオール大会を観て、日本チームの、こえられぬ一線が、実に根深いところに起因していることを知った。

日本ハンドボール界が、組織自ら造りあげたナショナルチームを一日も早く世に送り出すことを望みたい。　(NHK運動部)

◇……9月号から4回にわたってお送りした「モントリオール特集」は、今回をもって完結とします。

日本はA組に出場
世界学生選手権

(速報)FISU(国際大学スポーツ連盟)は、11月19日、第7回世界学生選手権の予選リーグ組み分けを発表した。

それによると、第1回(昭38)、第6回(昭50)について3度目の出場をする日本(全日本学生)は、A組に組みこまれ、3連勝を狙うルーマニアとぶつかるが、チュニジア、ベルギーと戦い易い相手が並び、目標のベストエイト進出は有望である。(前回は10位)

大会は、52年1月9日から16日までポーランドのワルシャワ、タルヌーフなどで行われ、14カ国が参加、日本代表(田中秀夫団長ら役員3、選手16＝本誌前号既報)は、12月下旬出発の予定。

(予選リーグ組み分け)▽A組　ルーマニア(前回1位)、日本(10位)、チュニジア(11位)、ベルギー　▽B組　ソ連(2位)、ユーゴ(5位)、アルジェリア、ハンガリー　▽C組　ポーランド(3位)、ブルガリア、オランダ　▽D組　スペイン(4位)、西ドイツ、イスラエル

(訂正)本誌前号・世界学生選手権日本代表のうち、大西和雄(日体)、勝地文雄(慶応)両選手の名前を誤ってお伝えしました。お詫びして訂正します。

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

実連ジュニア、4勝1敗の好成績

日韓社会人
後記・市原則之

第5回日韓男子社会人交流は、11月1日から10日まで「全日本実連ジュニア選抜」（横地宇吉団長ら役員4、選手12）が遠征して、ソウルなど5都市で5試合。韓国の国体（10月）で1位となった円光ク（昨年5月来日）に、ノータイムでのFTから決勝点を奪われて敗れた以外は快勝をつづけ4勝1敗の好成績をみやげとした。

5回の通算成績は日本側の25戦17勝1分7敗である。

老巧ソウル教員をかわす

遠征第1戦・ソウル教員との試合は11月2日午後4時10分から永東体育館で行われた。審判＝金昌勲、沈炯燮、観衆＝約五百

日本実連ジュニア 16（11―5 5―9）14 ソウル教員

【教員】	得		【実連】	得
金永年	0	GK	福井	0
崔大鎬	0	GK	大谷	0
金性洙	3	FP	津川	4
孫泰烈	3	FP	斉藤	3
金申経	0	FP	中本	2
柳在忠	3	FP	関本	0
朴鏞甲	0	FP	徳田	2
孟正述	3	FP	山本	0
高光錫	0	FP	清崎	5
李文植	0	FP	新田	0
高炳勲	2	FP	豊岡	0
安義洙	0	FP	藤枝	0
14	(3)	PT	(1)	16

○……4人の元韓国ナショナルを主軸とした相手に対し、日本（実連ジュニア）は初の公式戦。キャリアの差が心配された。

はたして、立ち上りから日本はボールが手につかず、津川、斉藤（ともに全日本）が強引に射って出たもののGK金の堅守に阻まれた。

しかし、ソウルの攻撃をGK福井が巧みにさばいて、得点差をつけられることはなく、後半に勝負を持ちこんだ。

開始1分、孫に先行点を許したが、日本も清崎の連続3ゴールをあげる活躍で取り返し、さらに中本の速攻、ポストで10分10―6と優位に立った。

ソウルは、このあと孟の迫力のあるシュートで追撃してきたが、日本は16分以後、斉藤の切れのよいシュートが決まり出し20分14―10、終盤のソウルの反撃をかわし切った。

仁荷の粘りに苦しむ

第2戦・仁荷工専との試合は4日午後4時45分から仁川体育館で行われた。審判＝柳在忠、李文植。観衆＝約三千

日本実連ジュニア 20（8―9 12―10）19 仁荷工専

【仁荷】	得		【実連】	得
林圭夏	0	GK	大谷	0
金錫圭	0	GK	福井	0
崔昌鉉	9	FP	斉藤	5
崔得洙	0	FP	清崎	1
李亂昌	4	FP	中本	0
朴贊武	2	FP	津川	4
徐承鎮	1	FP	藤枝	0
徐順晩	3	FP	徳田	4
中竜哲	0	FP	新田	1
呂運京	0	FP	豊岡	4
		FP	関本	1
		FP	山本	0
19	(5)	PT	(6)	20

○……三千をこす母校の応援をうけた仁荷の張り切りように対し、日本は若いだけに雰囲気に押され5分0―4とリードを許した。

6分ようやく右サイドから廻りこんだ清崎のポストプレーで1点。これをきっかけに斉藤、津川が追いあげたが守りが甘く、崔(昌)に射ちこまれ15分3―6と苦戦。

後半、日本は豊岡の連続ゴールと新田のポストプレーで4分逆転に成功したが、仁荷も崔(昌)、李徐(順)らが強引にポスト、サイドから攻めたててシーソーゲームとなった。

なかばすぎ、日本は徳田の出足のよいカットプレーからの速攻、豊岡のロングなどで、なんとか主導権をと狙うのだが、仁荷も粘り強く27分19―19。残り20秒、実連は、相手ディフェンスの乱れからPTを得、津川が決めて幕切れとした。

実力的には、日本が上であったが、勝負に対する執着心、闘志において仁荷に一歩をゆずり、それが、最後までペースをつかめぬ因になっていた。

余裕のぞかす快勝

第3戦・忠南大学との試合は5日午後5時45分から大田の忠武体育館で行われた。審判＝柳寅吉、朴麟基、観衆＝約千五百

日本実連ジュニア 26（13―7 13―8）15 忠南大

【忠南】	得		【実連】	得
趙長来	0	GK	福井	0
李炳盆	0	GK	大谷	0
朴徳培	1	FP	清崎	1
全吉煥	3	FP	津川	4
楊盛植	4	FP	中本	0
李徳興	4	FP	斉藤	4
洪光均	2	FP	豊岡	6
金善国	1	FP	徳田	3
柳在孟	0	FP	新田	2
曹泳沢	0	FP	藤枝	3
申漢洙	0	FP	関本	0
林漢洙	0	FP	山本	3
15	(2)	PT	(5)	26

○……忠南大の実力は、韓国学生界でBクラス。日本はようやく選手相互の気心も知れ、チームのムードは上々。プレーにも余裕がのぞき15分7―4とリードした。

その後も要所で得たPTを確実に活かしたほか、豊岡をはじめとする若手の活躍で着々と加点、後半10分18―9と大勢を決めた。

この余裕で、ディフェンス面が多少もろくなり、後半なかばすぎやや失点が多くなったが、まずは楽勝であった。

円光クに〝サヨナラ敗け〟

第4戦・円光クとの試合は6日午後3時40分から円光大学体育館

で行われた。審判＝崔大鎬、朴来吉、観衆＝約八百。

円光ク 20（8－7, 12－12）19 日本実連ジュニア

【円光】		得
GK	羅承紗	0
	張福順	0
FP	杜晩均	3
	金在容	0
	鄭鎮均	0
	岸鐘起	1
	金弘植	0
	柳寿洸	0
	崔永寿	6
	柳南朝	3
	鄭亨均	4
	崔炳章	3

【実連】		得
GK	福井	0
	大谷	0
FP	津川	4
	徳田	3
	斉藤	5
	清崎	2
	豊岡	0
	中本	2
	山本	0
	新田	0
	藤枝	0
	関本	3

19（3） PT （2）20

▽その他の出場者【円】FP朴在洙、崔圭干、柳寿珠、権五衡、朴程洙（いずれも得0）

○……円光クは今年の韓国々体（10月）の優勝チーム、現役は韓国チャンピオン。主力の崔炳章、鄭亨均、崔永寿、杜晩均らは今年6月、韓国学生の一員で来日している。

それだけに我々も、この一戦にウェイトをかけていたし、韓国協会関係者も注目していた。

日本は、徐々にペースが上っているとはいえ、遠征4戦目、疲れもピークに達していた。

2分のPTを斉藤が決めたが、すぐ鄭に返され、6分津川で先行したあとも、崔永寿になだれこまれ、得点は互角でも、やや押され気味。

一進一退の白熱した展開から、前半は、互いに大きな決め手がなく7－7のあと、円光が28分40秒PTを決めて、僅少差のリードとなった。

後半開始直後、日本は8－8の同点としたが、やはり今一歩の押しを欠いて、鄭亨均にゴールを奪われ、後を追う展開となる。

10分すぎ、ようやくロングヒッター・津川、斉藤、関本などのシュートが調子にのって、24分18－16と2点のリードをとり、そのまま押し切るかと思えたのだが、円光クは、韓国チャンピオンの面目をかけて激しい反撃をみせ29分ついに19－19の同点。

そしてタイムアップ寸前のフリースローを、鄭亨均がポイントオーバー気味に横倒れしながら執念じみた一投を決め20－19、観衆を狂喜させた。

日本チームは、悔しさよりも茫然として、このフィナーレを眺めるばかりで、忘れ得ぬ敗戦となった。

それにしても、円光クの粘り、ボールに対する執着心には改めて感心させられ、我々も大いに見習わねばならないだろう。

訪韓選手団

団長	横地 宇吉	（日実連理事）	
監督	市原 則之	（湧永薬品）	
コーチ	近森 克彦	（三陽商会）	
総務	西村 興八	（神戸製鋼）	
GK	福井 秀人	（湧永薬品）	
	大谷 満	（神戸製鋼）	177
FP	清崎 孝	（大同特殊鋼）	172
	中本 満明	（大同特殊鋼）	183
	斉藤 幸司	（大崎電気）	175
	新田 明	（大崎電気）	175
	関本 吉志	（日新製鋼呉）	180
	徳田 善雄	（日新製鋼呉）	174
	津川 昭	（湧永薬品）	180
	豊岡 維佐夫	（本田技研鈴鹿）	184
	山本 昭二	（神戸製鋼）	176
	藤枝 正道	（自衛隊勝田）	181

後半一気に逆転

釜山に車聖福

第5戦（最終戦）・釜山大クとの試合は8日午後3時45分から釜山大学体育館で行われた。審判＝李善行、李正魯、観衆＝約八百五十。

実連ジュニア 21（9－11, 12－4）15 釜山大ク

【釜山】		得
GK	李延雄	0
	金相泰	0
FP	朴性培	1
	日南哲	1
	柳光洙	1
	崔容煥	3
	李延浩	1
	金延彬	6
	車聖福	2
	朴正国	0
	玉唱守	0
	趙昇済	0

【実連】		得
GK	大谷	0
	福井	1
FP	徳田	7
	山本	0
	藤枝	0
	津川	5
	新田	0
	中本	1
	斉藤	5
	清崎	1
	豊岡	0
	関本	1

21（0） PT （4）15

○……釜山大クは韓国国体決勝で円光クに引き分けたという強豪。

しかも、韓国ナショナルの巨砲で、釜山大のコーチをつとめている車聖福（成均館大OB）が、出場すると伝えられ、我々は大いに緊張、今シリーズ最高の好ゲームになるだろうとの前評判だった。

相手ベンチには、噂通り車コーチがどっかりと座り、しかも、出番を待っている。

日本は、円光ク戦の負けが尾を引いているのか、攻守に鋭さがなく、17分までに3点をあげただけ一方の釜山大クは、はつらつとした動きで、着々と加点、10－3の差がついた。

ここで、日本はGK大谷を福井と入れ替え、FPに斉藤を送りこんだ。

この起用は当たり、斉藤がロングを3連続で決めたばかりか、20分すぎ福井がダイレクトシュートを決める活躍で完全に日本ペース9－11まで追いあげ前半を終了。

後半、釜山大クは、ついに車がプレー。さすがに切れ味は鋭く、巧みなフットワークで、二～三人のディフェンスを引きずりながら"左右両刀"から好シュート、10分までに2ゴールをあげた。

そのあと、車はマークされるとみるや、パッサーに転じ、さかんに好配球するのだが、釜山大クはこのプレーにつき切れず、歯車がかみ合わなくなった。

日本にとっては、車の登場がかえって幸いする形となり、徳田の出足のよいカットからの速攻、津川、斉藤などで後半なかばすぎ完全に主導権を奪い、終盤は一方的な展開となって最終戦を飾った。

車の動きはさすがではあったが、ハンドボール競技は、やはり7人で戦うチームスポーツ。いかに傑出した選手がいても、チームワークがなければ、むしろマイナスに作用することを教えた一戦で、若い日本選手にも"教訓的"だった。

☆★☆★☆★☆

海外トピックス

杉山茂
（NHK運動部）

モントリオール・オリンピックが終って一息ついていた国際ハンドボール界は、10月の声を聞いていっせいに活気を示しはじめた。

注目されるのは、来春初の世界選手権が開かれるジュニア部門の交流が多いことで、9月だけで男子2、女子3の国際トーナメントが行われている。

新法式の世界選手権スタート

第9回を数える世界男子選手権は、本誌でも再三伝えられているように、A・B・C3グループ（ランク）制という新しいシステムを採用するが、そのCグループが11月26日から12月2日までポルトガルのリスボン、ポルト両市で行われる。

参加はヨーロッパの8カ国で、すでに予選リーグ（11月26～28日）の組み分けはA組がオランダ、ポルトガル、ベルギー、イギリス、B組がスイス、フインランド、ルクセンブルグ、フアロー諸島と発表されている。

・各組上位2カ国で決勝リーグ（11月30日、12月1日）となり、1位から3位までが、来年2月オーストリアでのBグループに進出する。

Cグループの優勝候補はスイスとみられ、オランダがこれにつづく。3位争いは激烈で、順当ならフインランド×ベルギーの勝者になるだろう。

フランスが中国遠征

かねてから伝えられていたフランスの中国遠征が実現する。

フランス協会が10月末、正式発表したもので、それによるとメイヤー、ルッセル、ブッシェらベストメンバーを揃えた男子ナショナルチームが、11月16日から12月1日まで、北京、広東、上海の3都市で各2試合を行う。

中国の〝復活〟以後、ヨーロッパチームが遠征するのは、今回が4度目のハズで、ナショナルチームの訪中は、50年3月のユーゴ以来。

フランスの実力は、世界のBクラス、日本よりやや下とみられており、それだけに、今回の遠征の結果は、中国のレベルを知る上にも興味深い。

フランスは今年5月にも、軍隊選抜を遠征させている。（本誌141号参照）

ハンガリー、スイスに1敗

～スイス国際～

スイス国際トーナメントは10月28日から30日までジュネーブなどで、4カ国が参加して行われ、モントリオール6位のハンガリーが地元スイスに敗れながら、得失点差で辛くも優勝、面目を保った。

得点王は16ゴールをあげたズーリッヒ（スイス）。

ハンガリー 26－19 スペイン
フランス 20－18 スイス
ハンガリー 24－12 フランス
スイス 15－14 スペイン
スペイン 16－14 フランス
スイス 26（13－12、13－11）23 ハンガリー

【順位】①ハンガリー②スイス③スペイン・フランス

アルスラナジッチ、西独へ

世界屈指のGKとして、日本のファンにもおなじみの〝ユーゴの豹〟A・アルスラナジッチがモントリオール終了後、西ドイツのTUS・ネッテルスタット入りした。

ネッテルスタットは、数年前からルブキングの引き抜きをはじめ強引な補強策で下部リーグから一気に躍進、今季から宿願の全国リーグ（ブンデス・リガ）入りを果たし、2部時代、すでにユーゴのエース、ラザレビッチを迎え入れている。

ソ連、金の貫録　モントリオールで優勝を遂げたソ連男子の帰国第1戦が9月末、モスクワに東ドイツを迎えて行われ、15－11（前半10－5）でソ連が勝ち地元ファンの前で貫録を示した。

東ドイツは世界2位だが、オリンピックは予選で敗れ、出場できなかった。

中央アフリカ競技会　第1回中央アフリカ競技大会はさきにガボンで盛大に行われたが、ハンドボールも正式種目として加わり、6カ国が参加した男子はカメルーン、3カ国による女子はコンゴがそれぞれ優勝した。

この大会を機会に「中央アフリカ・ハンドボール連合」が設立されたと伝えられる。

ヨーロッパカップ

第17回（女子第16回）ヨーロッパカップトーナメントが火ぶたを切った。

ここ二～三年、東ドイツ、ルーマニアなどから代表が送りこまれていなかったが、今季は久々に男子26、女子25カ国とフルエントリーに近い。

すでに1回戦が終了、男子ではいきなりチェスカ（ソ連）とライプチヒSC（東ドイツ）が対戦、21－17、21－19でチェスカの連勝。

ステアウア・ブカレスト（ルーマニア）も、OP・トリエステ（イタリア）に2試合合計76－39の大差で、順当に勝ち進んでいる。

ステラ・サンモール（フランス）は、グラスホッパーズ（スイス）に敗れた。

女子は、過去5回優勝のスパルタク・キエフ（ソ連）が、AZS・ウロクロウ（ポーランド）に快勝して復帰を飾った。

ウインナーズ・カップ

去年から始められたいわゆる「カップ・オブ・カップス」。

参加国も25カ国（前回は15）に増え、新設の女子にも13カ国がエントリーしている。

男子は、前回旋風を巻き起して優勝をさらったバロンマノ・グラノラース（スペイン、50年来日）の試合ぶりが興味深いが、今年は東欧勢の熱の入れかたが違っており楽な道のりとはいえそうにない。

1回戦注目のパルチザン・ブジエロバル（ユーゴ）×タトラン・プレソフ（チェコ）は、24－13、27－19でブジェロバルが、MAI・モスクワ（ソ連）×ディナモ・ブカレスト（ルーマニア）は、1回戦を20－25で落したモスクワが、2回戦23－16でとり、逆転勝ちしている。

女子は11月に開始。

◎各地学生秋のリーグ戦〈続報〉

大阪体大、堂々の10連覇

関西・男子

大阪体大が10連覇を遂げた。関西学生秋のリーグ戦は、9月15日から10月24日までの16日間、男子5部31校、女子10校が大阪体育大学体育館、大阪府立大学体育館などで熱戦をくりひろげた。

男子1部（7校）は、予想どおり、前季のトップスリー・大阪体大、京都産大、近大が前半戦を順調に乗り切り、そのあと、近大がまず優勝争いから後退した。

優勝は、6シーズン連続、大阪体大―京都産大戦にかけられ、京都産大が後半8分11―10といったんはリードを奪ったが、大阪体大は10分すぎ丸井の巧技で優位に立ち14分15―11、そのままのペースで試合を進め、10シーズン連続優勝を飾った。

京都産大は6シーズンつづけての2位、3位は春同よう近大。1部で初めて4勝をマークし、上位校としての安定を示した。

4位以下は混戦模様だったが大阪経大が同志社と入れ替わり、同志社は27年春1部昇格以来、初めて5位転落となった。

6、7位は初の1部入りを果たした京都教大と大阪大が争い、得失点差で京都教大が上廻った。

各校が2勝以上あげるという大激戦を演じた2部（7校）は、結果的には第1日の大阪府大×天理が優勝戦。後半20分17―19と劣勢の大阪府大が3点連取で逆転勝ちそのあと京大に敗れ、甲南と引き分けるなどしたが6度目の優勝を遂げた。前季3部1位が次のシーズン2部優勝したのは47年秋の近大についで史上2度目。

3部（7校）は、前季2部の関学がまずまずのデキで全勝。関学は49年秋にも3部優勝している。

4部（5校）は、和歌山大、大阪薬大のせりあいから、和歌山がわずかにおさえた。3度目の優勝。

5部（5校）は、大阪外語大がバランスのとれたプレーで勝ち抜き、優勝（初）した。

得点王は、1部が夏原久志（近大4年、大阪商出）36点、2部が倉本積一（天理4年、添上高出）46点。3部は大場章好（大阪市大4年、函館ラサール高出）が35点をあげ春につづいて受賞した。4部は桑名幸夫（大阪薬大3年、寝屋川高出）26点、5部は奥田政俊（奈良教大2年、奈良高出）30点だった。

近大3位、同志社5位に

▽1部

大阪経大 16（8－5、8－7）12 同志社

【同志】GK 西川0　FP 古川4、金田1、浅沼2、滝本0、堀田5、高杉0、中辻0、迫村0、増田0、大杉0

【経大】GK 木村0、山田0　FP 山本2、田安2、石田0、大村4、川本3、篠原0、覚間5、木下0、田中0、加戸0

（審・梁川、川崎）

16（1）PT（0）12

京都産大 16（7－7、9－5）12 京都教大

近大 20（14－7、6－5）12 大阪大

同志社 18（12－9、6－6）15 大阪大

近大 19（10－8、9－3）11 大阪経大

大阪体大 29（14－13、15－2）15 京都教大

同志社 21（9－12、12－3）15 京都教大

京都産大 19（9－5、10－8）13 大阪経大

大阪体大 22（9－4、13－8）12 大阪大

近大 23（11－10、12－4）14 京都教大

大阪体大 24（13－5、11－2）7 大阪経大

京都産大 27（14－10、13－4）14 大阪大

大阪体大 18（10－5、8－8）13 同志社

大阪経大 24（13－3、11－5）8 大阪大

京都産大 12（5－4、7－6）10 近大

【近大】GK 岡本0、佐伯0　FP 夏原6、浜本0、福原0、芝田0、西辻0、長谷川1、島田1、田辺2、高橋0、岩田0

【京産】GK 清水0、松村0　FP 木村4、北野3、生駒3、田中2、西田0、浅田0、寺岡0、藤本0、松井0、林0

（審・佐谷、中尾）

12（2）PT（2）10

京都産大 21（11－5、10－5）10 同志社

大阪体大 25（12－6、13－4）10 近大

【近大】GK 岡本0、佐伯0　FP 夏原8、浜本0、福原0、芝田1、西辻0、長谷川1、田辺0、岩田0、吉田0、島川0

【体大】GK 松岡0、青木0　FP 西上2、佐々木6、丸井8、能波2、北川3、崎野3、大屋1、島中0、稲田0、多田0

（審・吉川、中尾）

25（2）PT（2）10

大阪経大 19（9－5、10－6）11 京都教大

京都教大 10（4－6、6－4）10 大阪大　引き分け

【阪大】GK 森0、乾0　FP 華井0、小山1、佐藤1、源間0、藤次3、土肥1、松山2、峯2

【教大】GK 咲本0、積田0　FP 依田0、中島0、太田2、山本0、水田1、前川2、内藤2、酒井3、大塚0

（審・吉川、逢坂）

10（0）PT（1）10

近大 18（9－10、9－5）15 同志社

大阪体大 20（11－9、9－7）16 京都産大

【京産】GK 清水0、松村0　FP 西田1、浅田0、寺岡0、生駒6、北野2、木村1、藤本2、松井4、田中0、林0

【大体】GK 松岡0、青木0　FP 西上1、佐々木2、丸井7、能波2、北川5、崎野3、大屋0、島中0、多田0、門河0

（審・前田、早川）

20（1）PT（3）16

【順位】①大阪体大6戦全勝②京都産大5勝1敗③近大4勝2敗④大阪経大3勝3敗⑤同志社2勝4敗⑥京都教大1分5敗（得失点差マイナス41）⑦大阪大1分5敗（マイナス50）

大阪府大、久々に活気

▽2部

神戸大 12（6－2、6－3）5 関大

大阪府大 20（13－6、7－13）19 天理

【天理】GK 松本0、石井0　FP 大門2、柴田4、長峰4、松村0、山本1、太田1、阪本1、庄司0、倉本6

【府大】GK 西井0、奥土0　FP 田中孝3、田中重1、河野4、松田0、萩原0、岡田5、大崎5、信長2、今田0、高橋0

（審・小山、橋本）

20（2）PT（2）19

大阪教大 25（12－6、13－11）17 京大

関大 19（11－6、8－6）12 京大

甲南 14（10—2、4—5）7 神戸大
大阪府大 13（6—8、7—5）13 甲南
引き分け
京大 13（8—8、5—3）11 大阪府大
天理 20（8—8、12—10）18 関大
大阪教大 25（12—10、13—5）15 神戸大
京大 13（7—4、6—4）8 甲南
大阪府大 19（8—6、11—5）11 大阪教大
天理 14（11—9、3—4）13 京大
関大 22（14—10、8—6）16 大阪教大
天理 21（13—8、8—10）18 甲南
神戸大 15（8—9、7—3）12 京大
甲南 18（7—7、11—7）14 大阪教大
神戸大 20（13—5、7—7）12 天理
大阪府大 16（8—9、8—6）15 関大
天理 19（9—6、10—12）18 大阪教大
大阪府大 16（8—8、8—6）14 神戸大
甲南 16（9—7、7—9）16 関大
引き分け

【順位】①大阪府大4勝1分1敗②天理4勝2敗③神戸大3勝3敗④甲南2勝2分2敗⑤関大2勝1分3敗⑥大阪教大2勝4敗（得失点差マイナス1）⑦京大2勝4敗（マイナス12）

関学、2度目の3部優勝

▽3部
竜谷 17—16 立命館
大阪市大 16—13 大阪工大
関学 16—14 桃山学院
追手門学院 18—10 竜谷
大阪市大 13（分）13 竜谷
桃山学院 23—20 大阪市大
関学 20—4 大阪工大
大阪工大 14—13 追手門学院
関学 15—14 竜谷
追手門学院 19—16 桃山学院
立命館 13—12 大阪工大
関学 16—6 立命館
立命館 16—9 追手門学院
関学 22—13 大阪市大
立命館 13—10 桃山学院
大阪工大 26—16 竜谷
追手門学院 27—19 大阪市大
大阪工大 15—13 桃山学院
関学 12—10 追手門学院
立命館 15—13 大阪市大
桃山学院 17—14 竜谷

【順位】①関学6戦全勝②立命館4勝2敗③追手門学院・大阪工大3勝3敗⑤桃山学院2勝4敗⑥大阪市大1勝1分4敗（得失点差マイナス19）⑦竜谷1勝1分4敗（マイナス21）

▽4部
大阪歯大 15—14 神戸商船
和歌山大 11—8 神戸商船
関西外語大 8—7 和歌山大
大阪薬大 15—6 神戸商船
関西外語大 19—11 大阪歯大
大阪薬大 23—13 大阪歯大
和歌山大 17—15 大阪薬大
関西外語大 13—4 神戸商船
大阪薬大 13—10 関西外語大
和歌山大 27—9 大阪歯大

【順位】①和歌山大3勝1敗（得失点差22）②大阪薬科大3勝1敗（20）③関西外語大3勝1敗（15）④大阪歯科大1勝3敗⑤神戸商船4敗

▽5部
大阪外語大 15—10 京都工繊大
京都工繊大 23—22 姫路工大
京都外語大 13—6 姫路工大
京都工繊大 22—10 京都外語大
大阪外語大 23—9 姫路工大
奈良教大 32—11 京都工繊大
大阪外語大 24—10 京都外語大
奈良教大 30—7 姫路工大
大阪外語大 19—11 奈良教大
奈良教大 24—13 京都外語大

【順位】①大阪外語大4戦全勝②奈良教大3勝1敗③京都工繊大2勝2敗④京都外語大1勝3敗⑤姫路工大4敗

武庫川女、初の春秋優勝

女子

新たに滋賀大、和歌山大、京都教大を加え10校、5校づつ2組の1次リーグを行い、各組同順位が対戦して1～10位を決めた。

予想どおり、1次リーグでは武庫川女、大阪体大が圧倒的な強さをみせ、特に武庫川女は奈良教大戦で37点差という記録的な点差をあけた。

優勝は4シーズンつづけて武庫川女×大阪体大の顔合わせとなり武庫川女が前半、今井の大活躍で先行すれば、大阪体大も新人・福田（新居浜商出）の健闘で追いこんだ。後半10分、武庫川女は小西で5—3としたが、大阪体大も12分平山、17分田辺で振り出しに戻し期待どおりの接戦となった。

残り1分、武庫川は谷が貴重な勝ちこし点をたたきこみ、3シーズン連続5度目の優勝を決めた。武庫川女の春秋制覇は初めて。

3位決定戦は成蹊が後半5分6—0と一方的に押しまくり勝った。

個人最高得点選手は、28ゴールをあげた小西和美（武庫川女4年鶴見商出）。

▽A組
成蹊 22—4 奈良教大
滋賀大 11—10 大阪薬大
武庫川女 32—0 滋賀大
成蹊 16—3 大阪薬大
武庫川女 40—3 奈良教大
武庫川女 21—0 大阪薬大

成　蹊 17—0 滋賀大
大阪薬大 9—8 奈良教大
滋賀大 7—6 奈良教大
武庫川女 11—8 成　蹊
【順位】①武庫川女②大阪成蹊女子短大③滋賀大④大阪薬科大⑤奈良教大

▽B組
大阪教大 19—1 和歌山大
京都教大 14—4 関　大
関　大 15—8 和歌山大
大阪体大 35—1 和歌山大
大阪教大 11—10 関　大
大阪体大 12—5 京都教大
大阪体大 14—3 関　大
京都教大 10—4 大阪教大
京都教大 20—2 和歌山大
大阪体大 13—4 大体教大
【順位】①大阪体大②京都教大③大阪教大④関大⑤和歌山大

▽9・10位決定戦
奈良教大 11（8—7, 3—4）11 和歌山大
引き分け

【和大】	得		【奈教】	得
古谷	0	GK	堀端	0
大塚	0	GK	上田	0
河崎	0	FP	坂本	2
増田	0	FP	井上	2
江川	0	FP	米本	0
沢井	7	FP	田中	3
留河	0	FP	登木口	3
細川	1	FP	細川	0
山崎	0	FP	三橋	1
山下	2	FP	荒木	0
青木	1	FP	石原	0
		（審・阪本 太田）	西村	0

11（0）PT（1）12

▽7・8位決定戦
大阪薬大 8（5—3, 3—3）6 関　大

【関大】	得		【薬大】	得
渡辺	0	GK	久保	0
久語	0	GK	遠山	0
山崎	0	FP	高田	2
三宏	1	FP	増岡	0
浅山	2	FP	大西	1
矢部	0	FP	長谷川	3
松下	2	FP	平岡	2
吉安	0	FP	白尾	0
高橋	1	FP	宮元	0
江口	0	FP	岡田	0
		（審・谷口 中尾）		

8（1）PT（0）6

▽5・6位決定戦
大阪教大 19（9—0, 10—3）3 滋賀大

【滋賀】	得		【大教】	得
山下	0	GK	石若	0
藤沢	2	FP	上田	1
田中	0	FP	萩原	3
宮崎	0	FP	福島	12
藤井	0	FP	住野	0
北村	0	FP	酒井	2
辻	1	FP	三宅	1
		FP	気比	0
		FP	松尾	0
		FP	森内	0
		（審・逢坂 橋本）	山本	0

19（1）PT（0）3

▽3・4位決定戦
成　蹊 9（4—0, 5—2）2 京都教大

【京教】	得		【成蹊】	得
中村	0	GK	片山	0
		GK	小寺	0
秦	0	FP	川崎	3
清水	0	FP	竹田	1
片岡	0	FP	谷川	0
竹内	2	FP	徳永	1
深尾	0	FP	富居	1
古川	0	FP	中川	2
		FP	伊藤貞	0
		FP	津田	1
		FP	伊藤史	0
		（審・喜田 梁川）	高木	0

9（0）PT（0）2

大阪体大の粘り及ばず

▽1・2位決定戦
武庫川女 6（4—3, 2—2）5 大阪体大

【大体】	得		【武庫】	得
滝本	0	GK	六車	0
柴田	0	GK	西川	0
船橋	0	FP	小西	1
平山	1	FP	鐘ケ江	0
松平	0	FP	佐野	0
大竹	0	FP	恒川	0
加藤	0	FP	福島	1
野村	0	FP	谷	1
浅井	0	FP	榎崎	0
田辺	1	FP	今井	3
岡田	0	FP	木下	0
福田	3	（審・早川 吉川）	坂本	0

6（0）PT（0）5

2部勢の挑戦及ばず

▼関西学生男子・1〜2部入れ替え戦（10月30日・大阪府大）
京都教大（1部⑥）20—11 天　理（2部②）
阪　大（1部⑦）21—13 大阪府大（2部①）

東海で、静大が1部復帰

▼東海学生男子1・2部入れ替え戦（11月6日・愛知教大）
静岡大（2部①）11（3—3, 8—4）7 滋賀大（1部⑥）
愛知教大（1部⑤）19（8—2, 11—12）14 南　山（2部②）
（注）リーグ記録は31頁

北大いぜん強味

北海道学生秋のリーグ戦は10月29日から31日まで釧路教大体育館に男子9、女子3校が参加して行われ、男子は北大が春季との通算で11連勝、3シーズン目の女子は教大釧路が春につづいて優勝。

▽男子予選リーグA組
室蘭工大 31—8 北海学園
北星学園 18—14 北海学園
室蘭工大 31—11 北星学園

▽同B組
旭川教大 19—17 北見工大
北見工大 15（分）15 小樽商大
旭川教大 17—10 小樽商大

▽同C組
北　大 26—7 北海道工大
釧路教大 24—7 北海道工大
北　大 29—13 釧路教大

▽同7〜9位決定リーグ
北海学園 17（分）17 小樽商大
小樽商大 17—13 北海道工大
北海学園 13—11 北海道工大
【順位】⑦北海学園⑧小樽商大⑨北海道工大

▽同4〜6位決定リーグ
北見工大 27—14 北星学園
北見工大 17—15 釧路教大
釧路教大 20—16 北星学園
【順位】④北見工大⑤釧路教大⑥北星学園

▽同1〜3位決定リーグ
室蘭工大 19—14 旭川教大
北　大 27—8 旭川教大
北　大 16—9 室蘭工大
【順位】①北大②室蘭工大③旭川教大

▽女子
旭川教大 4—3 北星学園
釧路教大 9—2 北星学園
釧路教大 8—2 旭川教大
【順位】①釧路教大②旭川教大③北星学園

（記録は北海道新聞から）

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

山梨社会人リーグ
韮崎クラブ
代表　横森　貞
事務所　韮崎高校内

山梨社会人リーグ
大月スワロー
代表　西室　覚

株式会社　大森組
代表取締役　大森　七五三造
専務取締役　大森　篤範
北海道上磯郡木古内町本町83

共同舗装工業株式会社
株式会社　斉藤組
共同生コンクリート株式会社
専務取締役　斎藤　八郎
北海道上磯郡上磯町字七重浜192

グリーンコミュニケーション
エレクトロニクスで未来を招く
日本電気株式会社山梨工場
山梨県山梨市小原西843
TEL 05532—2—3111(代)

大垣市ハンドボール協会長
伊部良男
岐阜県大垣市林町六丁目八〇番地
オーミケンシ株式会社大垣工場

◇岐阜県実業団ハンドボール連盟◇

会長	清水晴次	大垣市中曽根町	日本耐酸壜工業取締役
副会長	柳瀬準一	岐阜市西部中島	二和家具工業取締役
理事長	森島清明	大垣市中曽根町	日本耐酸壜工業
理事	隅田泰生	不破郡垂井町宮代	帝人製機岐阜工場
	新村　茂	岐阜市西部中島	二和家具工業本店
	泉　文俊	安八郡安八町大森	三洋電機岐阜工場
	安武英巳	大垣市久徳町 239	太平洋工業
	浅野敏夫	大垣市中曽根町	日本耐酸壜工業
	高橋省吾	大垣市神田町	揖斐川電工本社

◇愛知県実業団ハンドボール連盟加盟会社及び団体◇

アイシン精機株式会社
新日本製鉄株式会社　名古屋製鉄所
自衛隊春日井
大同製鋼株式会社
中部電力株式会社
トヨタ自動車工業株式会社
トヨタ車体株式会社
トヨタカローラ愛知株式会社
豊田自動織機株式会社
豊田工機株式会社
豊田合成株式会社
株式会社トーメン名古屋支社
日本碍子株式会社
パイロットインキ株式会社
伏原紡織株式会社
ブラザー工業株式会社
三菱自動車工業株式会社
名古屋自動車製作所

（アイウエオ順）

金沢工大、4シーズンぶり

北信越

10月16、17日の両日、信州大学体育館に7校が参加して行われた2組の予選リーグ後、各組同順位が対戦、春に続き金沢大と金沢工大が優勝をかけ、延長の末、金沢工大が4シーズンぶりに王座を奪回、通算10度目の優勝を遂げた。

▽予選ラウンド・A組

富山大 14（11－2、3－7）9 信州大
金沢大 26（12－2、14－1）3 金沢医大
富山大 27（16－9、11－4）13 金沢医大
金沢大 18（8－9、10－3）12 信州大
信州大 13（7－2、6－1）3 金沢医大
金沢大 23（12－7、11－5）12 富山大

【順位】①金沢大②富山大③信州大④金沢医科大

▽同・B組

金沢工大 31（15－3、16－0）3 金沢美術工芸大
金沢工大 18（10－1、8－2）3 福井大
福井大 25（14－4、11－5）9 金沢美術工芸大

【順位】①金沢工大②福井大③金沢美術工芸大

▽5位決定戦

信州大 24（14－4、10－4）8 金沢美術工芸大

▽3位決定戦

富山大 17（9－3、8－5）8 福井大

▽首位決定戦

金沢工大 22（11－7、6－10、…、3－2、2－1）20 金沢大

		【金工】得
GK	酒谷	0
FP	杉浦	0
	亀田	1
	作田	0
	福士	1
	清水	10
	石井	3
	城山	3
	宮本	4
	帆角	0
	滝山	0
	計	22
	PT	(1)

		【金沢】得
GK	酒井	0
FP	谷内口	6
	馬場	3
	芝	0
	池村	6
	杉原	1
	金井	3
	鈴木	1
	早川	0
	安食	0
	計	20
	PT	(2)

○……第1日(予選)は金沢大、金沢工大ともに危気なく勝ち、富山大も2勝をあげて好調なスタートを切った。第2日、A組2勝同士の金沢大×富山大は、金沢大の攻撃力が優り、同校が勝ちあがった。

金沢大×金沢工大の決勝は、前半、金沢工大が亀田、GK酒谷（世界学生代表）を中心とした固い守りと速攻で着実に点差を拡げ、後半もそのままのペースで逃げ切るかと思われた。

しかし、金沢大も谷内口の巧技で後半25分同点、さらに1点を加えて逆転する底力を見せたが、金沢工大は終了間際に同点、春につづいての延長となった。

延長後も1点を争う激しいせりあいとなったが、後半、金沢大は力つき連覇は成らなかった。

（佐野芳男・北信越学連委員長）

茨城大が初優勝

関東学生女子2部

関東学生秋季リーグ戦の女子2部は5大学が参加して9月25日から10月31日まで駒沢第一球技場などで行われ、茨城大が巧く波にのって4戦全勝、初優勝した。

1部との入れ替え戦は今季も行われない。

茨城大 5（3－3、2－1）4 千葉大
茨城大 16（7－1、9－2）3 学習院女子短大
青山学院 10（4－2、6－0）2 学習院女子短大
都留文科 5（4－3、1－1）4 千葉大
都留文科 21（12－0、9－1）1 学習院女子短大
茨城大 5（3－3、2－1）4 青山学院
青山学院 10（7－1、3－3）4 都留文科

茨城大(勝)×都留文化、青山学院(勝)×千葉大の記録は不明。

千葉大×学習院女短大は両校棄権により不成立。

【順位】①茨城大4戦全勝②青山学院3勝1敗③都留文化2勝2敗④千葉大・学習院女子短大3敗1不成立。

男子3部は関東学院

◆関東学生秋季男子3～6部（9月25日～10月31日・駒沢）

▽3部（8校）

立教 13－9 東大
関東学院 28－13 駒沢
茨城大 19－10 武蔵工大
防衛大 23－17 横浜商大
横浜商大 23－9 駒沢
東大 13－10 茨城大
立教 22－6 武蔵工大
関東学院 15－8 防衛大
東大 12－9 駒沢
関東学院 20－11 茨城大
横浜商大 14－13 立教
防衛大 25－7 武蔵工大
駒沢 16－10 茨城大
関東学院 16－14 東大
武蔵工大 15－6 横浜商大
立教 19－12 防衛大
関東学院 15－11 横浜商大
茨城大 18－14 立教
東大 12－9 武蔵工大
防衛大 14－11 駒沢
茨城大 22－13 横浜商大
関東学院 8－7 立教
武蔵工大 13－12 駒沢
防衛大 18－13 東大
関東学院 23－13 武蔵工大
横浜商大 11－9 東大
立教 24－21 駒沢
茨城大 21－19 防衛大

【順位】①関東学院7戦全勝＝4度目の優勝②立教4勝3敗（得失点差16）③防衛大4勝3敗(15)④茨城大4勝3敗(7)⑤東大・横浜商科大3勝4敗⑦武蔵工大2勝5敗⑧駒沢1勝6敗。得点王＝朱膳寺恭一（関東学院）53

▽4部（8校）

千葉工大 22－20 東洋
日本工大 18－11 成蹊
武蔵 26－18 千葉大
東京工大 13－9 上智
上智 18－15 武蔵
東洋 16－10 成蹊
日本工大 17－10 千葉工大
東京工大 20－11 千葉大
東京工大 31－6 成蹊
千葉大 22－10 日本工大
上智 16－12 東洋
千葉工大 11－8 武蔵
千葉大 17－12 成蹊
上智 21－14 千葉工大
東京工大 20－14 日本工大
武蔵 20－16 東洋
東洋 24－23 日本工大
東京工大 19－14 武蔵
上智 14（分）14 千葉大
千葉工大 29－8 成蹊
東京工大 19－13 千葉工大
東洋 15（分）15 千葉大
成蹊 棄権 武蔵
上智 12－10 日本工大
武蔵 23－22 日本工大
東洋 17－13 東京工大
千葉大 25－9 千葉工大
上智 14－5 成蹊

【順位】①東京工大6勝1敗＝初優

勝②上智5勝1分1敗③千葉大3勝2分2敗④東洋3勝1分3敗⑤千葉工大・武蔵3勝4敗⑦日本工大2勝5敗⑧成蹊1勝6敗 得点王＝兼田佳博（日工大）40・3度目

▽5部（8校）
大東文化 14－13 東京経大
横浜市大 18－14 東京理科大
一　橋 20－10 埼玉大
明治学院 11－10 千葉商大
一　橋 21－11 東京理科大
大東文化 17－11 千葉商大
東京経大 17－7 明治学院
埼玉大 16－13 横浜市大
千葉商大 24－11 埼玉大
明治学院 19－14 横浜市大
大東文化 16－15 一橋
東京経大 13（分）13 東京理科大
千葉商大 16－14 横浜市大
東京経大 19－13 一橋
明治学院 24－17 埼玉大
大東文化 28－7 東京理科大
大東文化 29－12 明治学院
東京理科大 24－11 埼玉大
一　橋 14－13 横浜市大
東京経大 18－11 千葉商大
埼玉大 13－12 東京経大
大東文化 21－18 横浜市大
東京理科大 28－12 千葉商大
一　橋 27－3 明治学院
大東文化 26－8 埼玉大
東京理科大 13－12 明治学院
東京経大 16－5 横浜市大
千葉商大 18－17 一橋

【順位】①大東文化7戦全勝＝初優勝②東京経大4勝1分2敗③一橋4勝3敗④東京理科大3勝1分3敗⑤千葉商大・明治学院3勝4敗⑦埼玉大2勝5敗⑧横浜市大1勝6敗。得点王＝桐橋伸男（大東文化）57

▽6部（9校）
神奈川大 11－9 亜細亜
横浜国大 26－7 東京写真大
和　光 9－6 都立大
独　協 21－19 亜細亜
都留文化 棄権 山梨大
都立大 9－8 東京写真大
横浜国大 20－11 和光
都立大 14－10 亜細亜
独　協 棄権 山梨大
神奈川大 16－13 都留文化
神奈川大 9（分）9 横浜国大
亜細亜 29－11 和光
東京写真大 12－8 独協
都留文化 25－11 和光
都立大 棄権 山梨大
神奈川大 17－4 都立大
独　協 13（分）13 和光
神奈川大 15－6 東京写真大
横浜国大 24－15 都留文化
亜細亜 棄権 山梨大
亜細亜 22－11 東京写真大
横浜国大 26－17 独協
和　光 27－8 東京写真大
神奈川大 棄権 山梨大
独　協 21－18 都留文化
横浜国大 12－11 都立大
神奈川大 24－10 和光
都立大 29－17 独協
亜細亜 21－10 都留文化
横浜国大 棄権 山梨大
都留文化 15－8 東京写真大
和　光 棄権 山梨大
神奈川大 28－7 独協
横浜国大 20－11 亜細亜
東京写真大 棄権 山梨大
都留文化 16－8 都立大

【順位】①神奈川大7勝1分（得失点差62）＝初優勝②横浜国立大7勝1分（56）③亜細亜・都留文化・都立大4勝4敗⑥和光・独協3勝1分4敗⑧東京写真大2勝6敗⑨山梨大8敗（棄権）※東京農工大、東京医科歯科大、東邦の各校は今季不参加。得点王＝本田三雄（横浜国大）48

芝浦工大、辛くも2部残留

▽関東学生秋季男子各部入れ替え戦（11月4日・駒沢体育館）

▽5～6部
横浜市大（5部⑧）15－11 神奈川大（6部①）
埼玉大（5部⑦）20－15 横浜国大（6部②）

▽4～5部
日本工大（4部⑦）20－15 東京経大（5部②）
大東文化（5部①）23－5 成蹊（4部⑧）

▽3～4部
上智（4部②）17（延）14 武蔵工大（3部⑦）
駒沢（3部⑧）13－11 東京工大（4部①）

▽2～3部
立教（3部②）14（9－3 5－5）8 専修（2部⑦）
芝浦工大（2部⑧）17（9－6 8－9）15 関東学院（3部①）

○……芝浦工大は後半20分12－15の劣勢から、一気に5点を奪い辛くも逆転、2部残留を決めた。

▽1～2部
明治（1部⑦）20（11－8 9－8）16 順天堂（2部②）
法政（1部⑧）25（18－8 7－5）13 東海（2部①）

早稲田、慶応押し切る

第24回早慶定期戦は11月13日東京・早大記念会堂で行われ、現役戦は、リードされた慶応が後半、激しく詰め寄って白熱したが、早稲田は前半の優位をはなさず押し切った。通算成績は早稲田の15勝7敗2引分け。

▽OB戦
稲門ク（早）24－10 三田ク（慶）

▽現役戦
早稲田 19（9－9 10－6）15 慶応

男子は大阪体大快勝

第9回日体－大阪体大定期戦は11月14日大阪体育大学体育館で行われ、男子は大阪体大が西日本ナンバー・ワンの実力を示し19点差の快勝。全日本学生の前哨戦ともいえる女子は、日体が勝った。

▽男子
大阪体大 31－12 日体

▽女子
日体 8－4 大阪体大

名城、初の春秋優勝

東海

東海学生秋のリーグ戦は10月10日から31日までの8日間、名古屋市体育館、愛知教大体育館などで1部6、2部9校が参加して行われた。

1部は予想どおり名城、中京が圧倒的な力をみせ各校を連破、15シーズンつづけて、両校の優勝争いとなり、1点を争う緊迫した進行から名城が後半20分すぎの2PTを活かし、中京の激しい反撃を振り切って、2シーズン連続4度目の優勝を飾った。春秋連覇は初めてのこと。

2部の首位決定リーグは激戦となり、静岡大、南山大、名古屋学院が三つ巴、得失点差で静岡大が31年秋、41年秋についで3度目の優勝を決めた。

▽1部

名城 28（17－6, 11－2）8 名大

中京 34（21－3, 13－3）6 岐阜大

愛知教大 17（12－6, 5－11）17 滋賀大（引き分け）

中京 37（18－3, 19－4）7 愛知教大

名城 19（11－2, 8－3）5 岐阜大

名大 19（11－4, 8－4）8 滋賀大

岐阜大 11（7－6, 4－3）9 名大

名城 39（24－4, 15－2）6 滋賀大

名城 41（20－6, 21－5）11 愛知教大

中京 31（12－3, 19－3）6 滋賀大

名大 25（14－8, 11－9）17 愛知教大

岐阜大 14（7－9, 7－4）13 滋賀大

中京 29（14－3, 15－3）6 名大

愛知教大 13（7－6, 6－6）12 岐阜大

名城 9（5－5, 4－3）8 中京

【中京】		得
GK	川上	0
	原	0
FP	村上	1
	西脇	0
	小島	1
	木村	1
	宮尾	0
	中野	5
	安藤	0
	吉本	0
	西山	0
	林	0

【名城】		得
GK	木村	0
	松井	0
FP	高橋	2
	鈴木康	2
	谷元	1
	西浜	0
	鈴木輝	3
	安藤	1
	平山	0
	山下	0
	江崎	0
	瀬島	0

（審・宇津野、角）

9（3）PT（2）8

○……中京は名城の早目のプレスディフェンスに手をやき、一方、名城も左3人という個性ある攻撃をみせながら中京GK・原の好守にあって思うように得点があげられなかった。

後半、名城が安藤、鈴木輝で先手をとりつづけたが、中京も中野の活躍で追いあげ、15分小島で6－6、しかも相手のエース・鈴木康が2分間退場を課せられ、逆転かと思われたが追加点がなく、かえって19、20分二本のPTを与えて、再び名城に先行を許してしまった。

名城は26分鈴木輝で9－6としたあと、粘る中京に2点を許したが逃げ切った。

中京は得意の速攻をつぶされて手づまりとなり、春の雪じょくはならなかった。（松井利幸）

【順位】①名城5戦全勝②中京4勝1敗③名大・岐阜大2勝3敗⑤愛知教大1勝1分3敗⑥滋賀大1分4敗

▽2部Aブロック

南山 18－5 三重大

愛知学院 21－8 三重大

南山 19－6 愛知学院

▽同Bブロック

静岡大 17－13 中部工大

静岡大 17－15 愛知大豊橋

愛知大豊橋 18－9 中部工大

▽同Cブロック

名工大 16－15 愛知大名古屋

名古屋学院 19－10 愛知大名古屋

名工大 11（分）11 名古屋学院

▽同7～9位決定リーグ

中部工大 20－8 愛知大名古屋

中部工大 20－14 三重大

愛知大名古屋 26－24 三重大

【順位】⑦中部工大⑧愛知大名古屋⑨三重大

▽同4～5位決定リーグ

愛知大豊橋 21（8－6, 13－3）9 愛知学院

愛知大豊橋 16（12－5, 4－2）7 名工大

名工大 19（8－5, 11－7）12 愛知学院

【順位】④愛知大豊橋⑤名古屋工業大学⑥愛知学院

▽同1～3位決定リーグ

静岡大 18（9－8, 9－5）13 名古屋学院

名古屋学院 14（7－9, 7－3）12 南山

南山 13（6－5, 7－6）11 静岡大

【順位】①静岡大（得失点差3）②南山（0）③名古屋学院（マイナス3）

女子は中京が全勝

一方、女子は新たに南山を加えた5校によって争われた。

岐阜大が中京女に食い下った以外は、中京女、中京が各試合とも一方的な展開で快勝、優勝をかけた両校の対決は劣勢の中京女大後半10分いちどは逆転したが、中京は終盤、再び多彩な攻めで主導権を奪い、そのまま押し切って2シーズンぶり18度目の優勝を飾った。

中京女 16（6－0, 10－0）0 南山

岐阜大 11（5－3, 6－2）5 愛知教大

中京女 14（11－4, 3－2）6 愛知教大

中京 10（8－1, 2－0）1 岐阜大

中京 24（10－0, 14－0）0 南山

中京 19（9－2, 10－3）5 愛知教大

中京女 8（3－0, 5－5）5 岐阜大

愛知教大 23（13－0, 10－1）1 南山

岐阜大 11（5－1, 6－1）2 南山

中京 12（6－6, 6－3）9 中京女

【中女】		得
GK	森下	0
	多田	0
FP	立川	6
	太田	0
	青木	0
	鈴木	0
	松下	3
	萬野	0
	野々宮	0
	山田	0
	日下部	0

【中京】		得
GK	錦見	0
FP	伊藤	0
	古山	1
	川合	0
	都築	2
	芦野	5
	今木	3
	中根	0
	豊本	0
	宮嶋	1
	橋本	0

（審・松井、鯉江）

12（1）PT（4）9

○……優勝を意識したのか両校の動きは固く、ミスも多かったが、中京は芦野のロングシュートで押し気味、先行した。

しかし、中京女も後半、10分までに三本のPTを立川が決めてタイ、さらに松下のゴールで逆転、好展開となった。

勝負は残り5分にかかったが、中京は21分今木が勝ちこし点、そのあと芦野、都築とたたみかけ、勝利を手中にした。ここ2シーズンほど低調だった女子だが、この試合はなかなか見応えがあった。（笹野邦雄）

【順位】①中京4戦全勝②中京女3勝1敗③岐阜大2勝2敗④愛知教大1勝3敗⑤南山4敗

中四国 広島大の初優勝成る

初の3部制を布いた中四国学生秋のリーグ戦は、11月6、7の2日間、日本鋼管福山工場体育館で行われた。

1部(5校)は、実力伯仲で激しい星のつぶしあいとなり、第1日2勝をマークしたチームはなく、第2日も混戦がつづいて優勝争いはもつれにもつれた。

結局、広島大が、2日間各1勝1分の負け知らずで、最良の成績となり、宿願の初優勝を飾った。

3連覇を狙った愛媛大は山口大戦に手痛い1敗をきっし、2位に終った。

2部(4校)は松山商大が全勝、3度目の優勝、3部(4校)は山口大工学部が香川大らをおさえた。

▽1部

愛媛大 26 (13—6, 13—11) 17 修道

広島大 18 (10—8, 8—5) 13 山口大

広大福山 18 (11—7, 7—6) 13 山口大

広島大 21 (8—11, 13—10) 21 愛媛大
引き分け

修道 17 (8—5, 9—10) 15 広大福山

山口大 12 (6—6, 6—4) 10 愛媛大

広島大 14 (9—7, 5—7) 14 広大福山
引き分け

得 0 0 0 1 4 0 4 3 6 3 0 0
【愛大】木田村田 西村根田子倉石
々佐松木池 泰 大中曽吉金小藤
GK FP (審・平田 村瀬)
【広大】田上木村村本井井橋田
池川高石木金藤板高久保
得 0 0 0 0 5 2 6 3 1 4

21 (0) FP (1) 21

山口大 28 (16—10, 12—6) 16 修道

愛媛大 14 (8—7, 6—6) 13 広大福山

広島大 16 (8—8, 8—7) 15 修道

【順位】①広島大2勝2分②愛媛大2勝1分1敗③山口大2勝2敗④広大福山1勝1分2敗⑤修道1勝3敗

▽2部

松山商大 17 (8—7, 9—4) 11 広島工大

松山商大 14 (10—3, 4—4) 7 岡山大

松山商大 18 (9—9, 9—2) 11 徳島大

広島工大 13 (8—3, 5—10) 13 岡山大

岡山大 12 (6—7, 6—5) 12 徳島大
引き分け

広島工大 22 (13—6, 9—0) 6 徳島大

【順位】①松山商科大3戦全勝②広島工大1勝1分1敗③岡山大2分1敗④徳島大1分2敗

▽3部

山口大工学部 22—20 香川大

山口大工学部 23—17 近大工学部

近大工学部 19—10 高知大

香川大 30—24 近大工学部

高知大 20 (分) 20 山口大工学部

香川大 29—16 高知大

【順位】①山口大工学部2勝1分②香川大2勝1敗③近畿大呉工学部1勝2敗④高知大1分2敗

岡山県立短大が初優勝

中四国学生秋の女子リーグ戦は11月6、7の両日、日本鋼管福山工場体育館で3校によって行われ岡山県立短大が、後藤、遠藤らの活躍で山口大を圧倒、貴重な1勝をあげ、初優勝した。

山口大は49年春以来の連続優勝がついえた(注・49年秋は休会)

岡山県立短大 8 (3—3, 5—5) 8 広大福山
引き分け

山口大 8 (3—1, 5—3) 4 広大福山

岡山県立短大 12 (8—4, 4—6) 10 山口大

【順位】①岡山県立短大1勝1分②山口大1勝1敗③広大福山1分1敗

北信越選手権も金工大

第3回北信越学生選手権は11月13、14日石川県体育館に5校が参加して行われ、リーグ(別掲)同よう、金沢工大×金沢大の決勝から14—10で金沢工大が優勝した。

もういちどおたずねします
大正11年～昭和11年の"ハンドボール史"

日本協会では、すでに本誌でもお伝えしているように「日本ハンドボール史」の編さんを企画、準備に入っていますが、いぜんとして、大正11年から昭和11年までの空白が埋まっておりません。

大正11年(一九二二)は、故大谷武一氏が、日本体育学会夏季講習会において、ハンドボールを初めて紹介した年です。

これまでの調査で、この年以前に、ハンドボールが日本へ"上陸"した形跡はなく、どうしても、この講習会の模様が、歴史を語るうえに欠かせないのです。

残念ながら、資料がまったくなく、日本協会周辺には、実際に、この講習会に出席し、受講されたかたから、その時の様子を聞く以外に、今のところ方法がありません。

当時、25才前後とみても今なお、元気なかたが居られるハズです。

どんな手がかりでも結構ですから、日本協会(電・〇三—四六七—七〇九七)へ、ご連絡下さい。

現存のハンドボール関係OBのほとんどは、昭和十年(一九三五)あたりからハンドボール界に接触されはじめており「大正11年の話」となると他競技とりわけ陸上競技関係者にツテが求められる感じです。

是非、皆さまと、皆さまのまわりのかたのご協力をお願いいたします。

また、昭和11年までの資料についても、引きつづき、ご提供下さい。

この部分が埋まらずに「日本ハンドボール史」を編むことは無意味でさえあります。

「日本ハンドボール協会史」は、すぐにでも着手できるだけのデーターや、取材源があるのですが、"前史"を集めるのにこれほど難行するとは思ってもみないことでした。

それだけに、この機をおいて収集するチャンスは今後ないと思います。

なお、昭和12年(一九三七)以降の資料についても、いずれ誌面を改めて、ご協力をあおぐ予定です。

各都道府県協会でも、最近球史の編さん計画が目立っておりますが、そのような折、日本協会関係の書類など、見つけられましたら、ご提供下さるよう予めお願いいたします。

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

建築設計施工
県知事許可（般―48）第1849号
協　和　建　築
代表者　木 村 正 信
奈良市下山町22の1　TEL0742―24 4716（自宅） 5259（工場）

サイエンスの勝利＝抜群の機能性
ADDAX BEST QUALITY SPORTS GOODS
日本ゴム株式会社
足利アサヒゴム販売株式会社
栃木県足利市弥生町15番地　0284―41―2167

ブリヂストンタイヤ
那須工場・栃木工場

奈良県ハンドボール協会長
堀　内　俊　夫
〒632　天理市嘉幡町
TEL　07436―4―0132

各種スポーツ用品
田 原 本 ス ポ ー ツ
奈良県磯城郡田原本町
TEL　07443 ② 2253

各種精密プレス加工，金型，省力機器，設計製作
清 国 産 業 株 式 会 社
代表取締役　清 水 国 善
本社・工場　栃木県足利市小俣町西大門2690-1
TEL　0284（62）0513（大代）

住み良いくらし　住みよい環境
（株）**都　商　事**　不動産部
（代）小 野 瀬 都 男
〒329-06 栃木県河内郡上三川町大字上郷1893
TEL　028556―5525（代）

杏林会　**金　岡　病　院**
堺 市 中 長 尾 町 2 丁 82
TEL　0722―52―2641（代）

スポーツ用具
ノ ダ 運 動 具 店
奈良市三条通り　TEL奈良（22）5662

株式会社　**日　進　商　会**
横浜市港北区樽町701番地
電話　045―541―7881（代）

宝　タ　ク　シ　ー
無線配車センター　052―682―6000番
ムセンバン
宝 交 通 株 式 会 社
名古屋市熱田区伝馬町4-13

医 薬 品 卸 売 業
株式会社 **井　上　誠　昌　堂**
代表取締役社長　井 上 塩 六
本社・高岡店　高岡市笹川2600　TEL31-0061（代）

アデダス，プーマ特約店
ヤ バ ネ ス ポ ー ツ
榊 原 康 弘
（第11回倉敷インター・ハイ第3位　清水商高選手）
清水市大寺2-1-9　TEL 0543-66-1603

クラウン・カリーナ
豊中トヨペット株式会社
代表取締役　小 西 清 海
豊中市稲津町2-4　TEL 06-863-6501（代）

株式会社　**高　田　組**
代表取締役　高 田 義 一
（富山県ハンドボール協会長）
富 山 市 宝 町 1 の 1

美津濃スポーツ特約店
み な み ス ポ ー ツ
東海市富木島町伏見1丁目
TEL（0560）64―5600

新潟県ハンドボール協会
柏崎市栄町5-16・柏崎工業高校
TEL　02572―2―5178・5179

石打シーハイル・ロッヂ
～夏は合宿　冬はスキー～
・緑に包まれた石打へ，特急で2時間15分
・駅・グランドまで車にて送迎
・1泊2食付 2,500円，団体20名以上はご相談に応じます
・70名収容，冬期シーズンは1泊2食付 3,000円
新潟県南魚沼郡塩沢町関山862の2.　02578 ③ 3229

東レナイロンカーペット　製造元
東洋カーペット 株式会社
本社・工場　金沢市南森本町768
TEL（0762）58―0888（代）

加賀友禅
（有）**宮　口　染　工　場**
金沢市油車町46　（店）31―2607 （工場）62―7820

S. D. P，学生勢なぎ倒し初優勝

各地の記録

第14回東京都選手権は10月31日から11月13日までの4日間、立川五中球技場などに男子46、女子12チームが参加してトーナメントで行われた。

男子は、三陽商会が、3回戦で安田生命に逆転負けしたほか、大崎電気が稲球会に、三景が東京教大に敗れるなど日本リーグ勢の低調が目につき、2連勝を期待された中大もベテラン揃いのSDPにあっさり押し切られた。

決勝はSDP×東京教大の初顔合わせから、飯田、東、竹野、GK福本らの大崎電気〝OB〟によるSDPが初優勝を飾った。全日本男子監督の竹野（39才）は、6試合で17点をたたき出し、元気なところを見せた。

女子は、日本ビクター×日体大の決勝となり、ビクターがいきなり11点連取、前半で勝負を決め、2年ぶり2度目の優勝となった。前回優勝の東京重機は3位。

日本リーグ勢元気なし

▽男子3回戦
三　景 25―15 東京教大C
東京教大 29―5 明治学院大
法　大 26―12 「学連」ク
稲球会 15―12 大崎電気
安田生命 14―12 三陽商会
日　大 22―11 中大B
S・D・P 16―12 東京重機
中　大 21―14 東京学芸大

▽同準々決勝
S・D・P 24―15 中　大
日　大 21―17 安田生命
稲球会 13―11 法　大
東京教大 17―15 三　景

▽同準決勝
S・D・P 21（11―6, 10―8）14 日　大
東京教大 18（10―3, 8―9）12 稲球会

▽同3位決定戦
日　大 棄　権 稲球会

▽同決勝
S・D・P 20（8―6, 12―7）13 東京教大

▽女子1回戦
日女体大B 5―4 熊の子会
日本ビクター（茨城）21―5 日女体大
東京教大 14―10 東京学芸大
日体ク 25―5 日女体大OG

▽同準々決勝
東京重機 13―4 日女体大B
日本ビクター 16―5 大崎電気（埼玉）
日体大 6―5 東京教大
東女体大 17―8 日体ク

▽同準決勝
日本ビクター 18（9―0, 9―2）2 東京重機
日体大 11（7―5, 4―4）9 東女体大

▽同3位決定戦
東京重機 13―8 東女体大

▽同決勝
日本ビクター 18（11―0, 7―6）6 日体大

岩津、市邨学園を破る

▼愛知県高校新人大会（11月・岡崎北高）

▽男子準々決勝
名南工 18―9 蒲郡東
桜台 12―8 名古屋市工芸
名古屋市工 15―12 岡崎北
中京 19―10 岡田城西
▽同準決勝
名南工 9―8 桜台
中京 14―6 名古屋市工
▽同決勝
中京 18（11―3 7―5）8 名南工
▽女子準々決勝
市邨学園 14―2 蒲郡
佐屋 6―1 名短大付
春日井 7―5 豊橋東
岩津 15―2 蟹江
▽同準決勝
市邨学園 21―2 佐屋
岩津 10―6 春日井
▽同決勝
岩津 10（7―5 3―4）9 市邨学園

女子は青森西、野辺地制す

▼第26回青森県下高校秋季選手権（9月・十和田工高）

▽男子準々決勝
十和田工 11―4 五所川原工
鯵ヶ沢 14―6 青森
青森商 27―11 七戸
野辺地 16―10 青森南
▽同準決勝
青森商 15―11 十和田工
鯵ヶ沢 13―12 野辺地
▽同決勝
青森商 15（6―0 9―4）4 鯵ヶ沢
▽女子1回戦（2試合）
野辺地 12―5 柏木農
三本木 13―4 青森東
▽同準決勝
野辺地 14―3 七戸
青森西 13―7 三本木
▽同決勝
青森西 6（2―2 4―2）4 野辺地

日大明誠、日川破る

▼山梨県高校新人大会（10月・甲府市）

▽男子準決勝
日大明誠 18―4 大月付
日川 17―11 甲府二
▽同3位決定戦
大月付 12―10 甲府二
▽同決勝
日大明誠 18（10―4 8―8）12 日川
▽女子3位決定戦
山梨 8―5 長坂
▽同決勝
日川 6（3―1 3―1）2 吉田商

瀬戸クと三本松OG

▼香川県総合選手権（10月・高松工芸高）

▽男子準決勝
瀬戸クB 26―14 高松高OB
瀬戸ク 21―15 高松南高
▽同決勝
瀬戸ク 21―13 瀬戸クB
▽女子決勝
三本松OG 10―4 三本松高

▼第29回沖縄県民体育大会ハンドボール競技（11月・沖縄市体育館）

▽男子準々決勝
八重山 25―7 中頭
島尻 21―14 国頭
沖縄 15（延）14 那覇
浦添 21―16 宮古
▽同準決勝
島尻 10―7 八重山
沖縄 20―15 浦添
▽同決勝
島尻 14（8―6 6―7）13 沖縄
▽女子1回戦（1試合）
那覇 棄権 島尻
▽同準決勝
宮古 11―3 浦添
那覇 21―3 沖縄
▽同決勝
那覇 14（7―0 7―2）2 宮古

▼第14回福島県秋季高校新人選手権（11月・郡山総合体育館）

▽男子準々決勝
岩瀬農 14―8 南会津
聖光学院 18（延）17 郡山西工
安積 25―7 安積商
内郷 18―11 長沼
▽同準決勝
聖光学院 19―6 岩瀬農
安積 25―13 内郷
▽同決勝
安積 15（8―6 7―4）10 聖光学院
▽女子準々決勝
福島女 18―2 安積商
日本女工 8―2 福島西女
本宮 6―5 石川
緑が丘 21―2 東白河農
▽同準決勝
緑が丘 12―1 本宮
福島女 12―6 日本女工
▽同決勝
福島女 10（5―2 5―2）4 緑ガ丘

▼第31回岡山県高校新人大会（11月・津山工）

▽男子準々決勝
倉敷工 8（分）8 倉敷商
PTコンテストで倉敷工の勝ち
児島 22―9 総社
津山工 8―7 成羽
天城 9―8 芳泉
▽同準決勝
倉敷工 21―7 児島
天城 8―5 津山工
▽同決勝
倉敷工 9（4―3 5―2）5 天城
▽女子準々決勝
津山商 14―2 総社
天城 11―6 落合
津山 5―4 岡山女
西大寺 8―6 真備
▽同準決勝
津山商 14―2 天城
西大寺 12―4 津山
津山商 7―3 西大寺

★編集後記★

□……新しい時代へのステップを踏み出す時が来ている――誰の胸中にも、この想いがあるようです。

全国代議員会・理事会にも、そうしたムードが反映したようで、来年以降、いくつかの新企画を打ち出すことが決まりました。

□……問題は、それにともなう財源と人材でしょう。

財源はともかくとして（というと誤解を招くかもしれませんが）、人材について日本協会は、いささか手詰りな印象を否めません。

特に、キャリア重視の人事は安定を得こそすれ、発展・冒険は望めず、一般的なアピールに欠けることとなります。

□……勇退が確定的となった田村正衛会長は、はっきりと「すべての面で新しく…」を口にされ、来るべき年度（52～53年）が、新発展期への幕開けになることを切望しています。

気の早い話で、とりようによっては、いささか煽情的ですが来期の人事が注目されます。

□……本誌も購読料値上げという非常手段に訴えながら、続刊がきまりましたが、新鮮な編集陣を改めて〃公募〃したいと思います。是非、お名乗りを!!（杉）

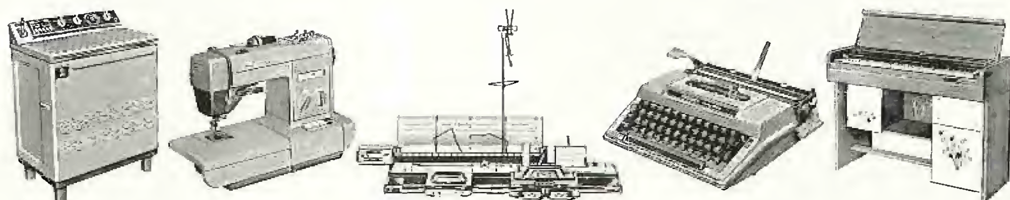


練習が技術をつちかい
技術が信頼を支える

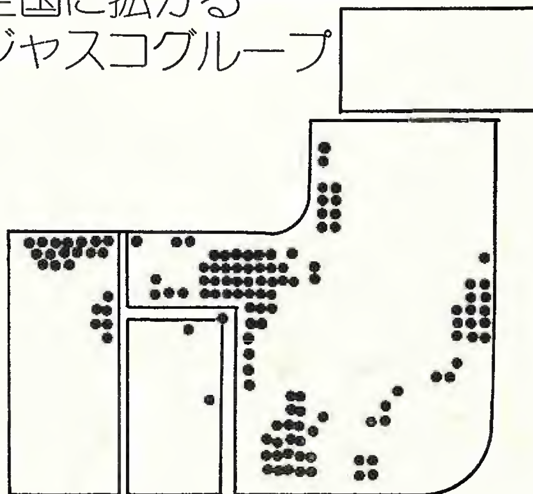
きょうの反省を、あすの練習に、試合に結びつける……スポーツマンにとって、大切な心がまえです。常により高度な技術をめざしてチャレンジする——それはブラザーが目ざしているものと一致します。技術がチームメートの信頼を支えるように、お客さまの信頼に応えるのは、高度な技術に支えられた品質以外にないのですから——。

BROTHER
ブラザー

ブラザー工業株式会社
ブラザーミシン販売株式会社









日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一四八号
昭和四十年六月　日　第三種郵便物認可
昭和五一年十一月二十五日印刷　昭和五一年十二月一日発行
発行所　日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南一-一-一
電話　大代表(467)三二一一
振替　東京五八三四八番
編集兼発行人　荒川清美
定価二百八十円（年間購読料二千七百円）